

2025年4月新聞書評に掲載された本



我らが緑の大地

荻原 浩 著

KADOKAWA

企業で植物の会話を研究している野乃。原因不明の山火事、猿の狂暴化、森を走る「謎の野人」の目撃など奇怪な出来事が相次ぎ、野乃はそれらを「植物による反乱」ととらえ立ち向かうが…。『小説野性時代』連載に加筆修正。

産経新聞 2025/04/06

2025:2./ 399p
978-4-04-114748-1

¥2,200〔税込〕



9 784041 147481



グンナイ・ナタリー・クローバー

須藤 アンナ 著

集英社

支配的な父、見て見ぬふりの兄、家を出て行った母のせいで、ソフィアは毎日をうつむいてやり過ごしていた。そんな彼女が13歳の夏、自称「毎週生まれ変わる」ナタリーと出会い…。決別と旅立ちの物語。

産経新聞 2025/04/06

2025:2./ 194p
978-4-08-771894-2

¥1,760〔税込〕



9 784087 718942



タクトは踊る～風雲児・小澤征爾の生涯～

中丸 美繪 著

文藝春秋

カラヤン、バーンスタインなどの世界的指揮者に認められ、ウィーン国立歌劇場音楽監督にまで上り詰めた小澤征爾。彼はどのようにして日本を飛び出し、世界中のファンの心を掴んでいったのか。不世出のマエストロの実像に迫る。

産経新聞 2025/04/06

2025:2./ 476p
978-4-16-391948-5

¥2,420〔税込〕



9 784163 919485



しずかなパレード

井上 荒野 著

幻冬舎

佐世保の和菓子店の若女将が、ある夜、姿を消した。残された夫の怒りと嘆き、愛人の不審と自嘲、捨てられたと感じながら成長する娘…。「不在」の12年間を様々な視点から綴る長編小説。『GINGER L.』連載を書籍化。

産経新聞 2025/04/06

2025:2./ 217p
978-4-344-04407-4

¥1,870〔税込〕



9 784344 044074

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
- 表示価格は2025年4月時点での税込み価格です。



優しさの手紙〜句集〜

小倉蒼蛙 著
書肆アルス

冬うらら陽は公園に陽は君に 酒の外何も無けれど夏座敷 絵画のごとき入道雲の何処かに君は 俳優・小倉一郎の第4句集。平成17年から令和6年までの410句を収録する。芸能活動にまつわるエッセイも掲載。

産経新聞 2025/04/06

2025:3./ 195p
978-4-907078-50-8

¥1,980〔税込〕



9 78 49 07 07 85 08

短歌の「てにをは」を読む

大辻 隆弘 著
いりの舎

産経新聞 2025/04/06

2025:3./ 213p
978-4-910885-41-4

¥1,980〔税込〕



9 78 49 10 88 54 14



ぜるぶの丘で〜歌集〜(りとむコレクション 136)

天野 陽子 著
KADOKAWA

待つ人の林のような改札にひとりひとりが棲まわせる鳥 パソコンと炭酸水を携えて おおらかな休日の出勤 まるやかになれば削られまた尖る鉛筆となり窓口に立つ
2001年から2022年までの372首を収録した第1歌集。

産経新聞 2025/04/13

2025:2./ 167p
978-4-04-884632-5

¥2,860〔税込〕



9 78 40 48 84 63 25



未来図と蜘蛛の巣

矢部 嵩 著
講談社

矢部嵩の小説に説明は不要。矢部ワールドに足を踏み入れたが最後、あなたはそこから出られない。『tree』で連載された表題作「未来図と蜘蛛の巣」及びそのシリーズに加え、既発表の掌編と書き下ろしを収録する。

産経新聞 2025/04/13

2025:3./ 325p
978-4-06-538310-0

¥2,420〔税込〕



9 78 40 65 38 31 00



ユダヤ人の歴史〜古代の興亡から離散、ホロコースト、シオニズムまで〜 (中公新書 2839)

鶴見 太郎 著
中央公論新社

ユダヤ人はなぜ世界に影響を与え続けているのか。古代王国建設から民族離散、東欧での迫害、ナチによる絶滅計画、ソ連・アメリカへの適応、中東戦争まで、3000年のユダヤ史を雄大なスケールで描く。

産経新聞 2025/04/13

2025:1./ 336p
978-4-12-102839-6

¥1,188〔税込〕



9 78 41 21 02 83 96



ゆるる日本語、それでもゆるるがない日本語(基礎から身につく「大人の教養」 NHK 調査でわかった日本語のいま)

塩田 雄大 著
世界文化社

「とんでもありません」はとんでもない？ 卵焼きか、玉子焼きか？ 一つのものごとを言い表すのにいくつもの言い方がある日本語について、NHK の調査をもとに、客観的かつ具体的に示す。

産経新聞 2025/04/13

2025:3./ 255p
978-4-418-25211-4
¥1,870〔税込〕



毛糸のズボン～直野祥子トラウマ少女漫画全集～(ちくま文庫 な 61-1)

直野 祥子 著
筑摩書房

祖母の手編みのズボンを穿きたくないひろしは…。表題作はじめ、誰もが思い当たる人間心理を突き詰めて、70年代の少女たちを恐怖のどん底に陥れた直野祥子のトラウマ少女漫画を、自身による全収録作品解説を付して集成。

産経新聞 2025/04/13

2025:2./ 327p
978-4-480-44009-9
¥1,100〔税込〕



移動そのもの

井戸川 射子 著
筑摩書房

言葉が奔り、物語が跳ねる！一文ごと一語ごとに世界が相貌を変えていく、めくるめく体験に満ちた短編集。表題作など全9編を収録する。『ちくま』『文學界』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/04/13

2025:3./ 151p
978-4-480-80523-2
¥1,980〔税込〕



NEXUS 情報の人類史<上> 人間のネットワーク

ユヴァル・ノア・ハラリ 著
河出書房新社

印刷術やマスメディアは文明に何をもたらしたのか？ AI は何を变えるのか？ 石器時代からシリコン時代まで、人類の大規模な協力のネットワーク=「情報ネットワーク」の変遷をたどり、今後の展開や対策の手掛かりを探る。

産経新聞 2025/04/13、日本経済新聞 2025/04/26、東京・中日新聞 2025/04/27

2025:3./ 304p
978-4-309-22943-0
¥2,200〔税込〕



NEXUS 情報の人類史<下> AI 革命

ユヴァル・ノア・ハラリ 著
河出書房新社

印刷術やマスメディアは文明に何をもたらしたのか？ AI は何を变えるのか？ 石器時代からシリコン時代まで、人類の大規模な協力のネットワーク=「情報ネットワーク」の変遷をたどり、今後の展開や対策の手掛かりを探る。

産経新聞 2025/04/13、日本経済新聞 2025/04/26、東京・中日新聞 2025/04/27

2025:3./ 328p
978-4-309-22944-7
¥2,200〔税込〕





花のうた

左右社編集部 編
左右社

「はなびら」と点字をなぞる ああ、これは桜の可能性が大きい」「花瓶だけうんとあげたい絶え間なくあなたが花を受けとれるように」 同時代の歌人 100 人がうたった 100 首の「花」をテーマにした短歌アンソロジー。

産経新聞 2025/04/13、毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 135p
978-4-86528-462-1

¥2,200〔税込〕



日本神話の考古学(角川新書 K-474)

森 浩一 著
KADOKAWA

弥生は戦乱の世だった。この動乱と、南九州の勢力あるいは文化が大和など近畿へと東伝したことが「神武東征」の物語を生み出す伝承になったのか。考古学の科学的成果と日本神話の重要なテーマを突き合わせ、古代史を見通す。

産経新聞 2025/04/20

2025:1./ 246p
978-4-04-082536-6

¥1,056〔税込〕



移民リスク(新潮新書 1077)

三好 範英 著
新潮社

移民受け入れを押し進めて本当に良いのか。クルド人問題に揺れる埼玉・川口、彼らの故郷トルコ、移民流入に悩むドイツ、「入管の闇」問題をめぐって現地を徹底取材。国家の基盤を揺るがす「日本的ゆるさ」に警鐘を鳴らす。

産経新聞 2025/04/20

2025:2./ 207p
978-4-10-611077-1

¥968〔税込〕



交番相談員百目鬼巴

長岡 弘樹 著
文藝春秋

警察を定年退職し、非常勤の「交番相談員」として働いている百目鬼巴。彼女は卓越した洞察力で、目の前で起こっていることの真相・裏側を立ちどころに見抜いてしまう。『オール讀物』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/04/20

2025:4./ 250p
978-4-16-391967-6

¥1,870〔税込〕



父の恋人、母の喉仏～40 年前に別れたふたりを見送って～

堀香織 著
光文社

人たらし女たらしで 3 度離婚した金沢に暮らす父親、歌舞伎町でホステスとなった母親、そしてその娘。離婚した両親をそれぞれに「看取った」「見送った」娘が、思い出を綴る。

産経新聞 2025/04/20

2025:3./ 238p
978-4-334-10600-3

¥1,870〔税込〕





書棚の一隅～西村賢太が愛した短篇～(銀河叢書)

杉山 淳 編
幻戯書房

私小説家・西村賢太の随筆集「誰もいない文学館」をはじめとする、西村自身が読み耽った文学作品をめぐる文章や発言をもとに構成したアンソロジー。大坪砂男「天狗」、嘉村磯多「足相撲」など明治・大正・昭和の10篇を収録。

産経新聞 2025/04/20

2025:1./ 252p
978-4-86488-315-3

¥3,740 [税込]



ウクライナ戯曲集

村田真一 編
国書刊行会

ウクライナの架空の村を舞台に、行き詰まった社会状況の中に新しい時代の到来を求める若者たちの声が響く「盗まれた幸せ」をはじめ、19世紀末～20世紀初頭のウクライナ文学の特質をよく表す3つの戯曲を本邦初紹介。

産経新聞 2025/04/27

2025:3./ 341p
978-4-336-07729-5

¥3,080 [税込]



ファラオ～古代エジプト王権の形成～(ちくま新書 1849)

馬場 匡浩 著
筑摩書房

古代エジプトの最高権力者、ファラオの実像とは。最新の考古学的知見に基づき、エジプト文明の起源から王権・神性の背景、ファラオの果たすべき使命、さらにはミイラの作り方やピラミッドの目的までを幅広く紹介し、謎に迫る。

産経新聞 2025/04/27

2025:3./ 304p
978-4-480-07676-2

¥1,056 [税込]



秩序崩壊～21世紀という困難な時代～

ヘレン・トンブソン 著
東洋経済新報社

欧州諸国の混乱の起源は「1956年のスエズ危機」、グリーンエネルギー重視が招く「中国依存、雇用喪失、貧困と分断」…。エネルギー・グローバル金融・民主主義の3つの歴史を軸に、長期的な地政学的物語でその行方を描く。

産経新聞 2025/04/27

2025:4./ 560p
978-4-492-44486-3

¥3,960 [税込]



花粉はつらいよ

岩井 圭也 編
亜紀書房

涙と鼻水なくして語れない! 小説家、詩人、植物学者、登山家、哲学者など、45人が花粉症あるある&リアルを赤裸々に綴った、抱腹絶倒の花粉症ノンフィクション。

産経新聞 2025/04/27

2025:4./ 191p
978-4-7505-1874-9

¥1,760 [税込]





本屋のパンセ～定有堂書店で考えたこと～

三砂 慶明 編
奈良 敏行 著
作品社

町の本屋を一生の仕事として続けてきた著者が、本を売ること、本を読むこと、客と対話することの楽しさを綴る。定有堂書店発行の月刊ミニコミ誌『音信不通 本のピオトープ』掲載に書き下ろしを加えて、再構成。

産経新聞 2025/04/27

2025:3./ 243p
978-4-86793-073-1

¥2,420〔税込〕



9 78 4 867 9307 31

わたしたちはどう生きるのか～JR 福知山線脱線事故から 20 年～

コトノ出版舎
産経新聞 2025/04/27

2025:4./ 320p
978-4-9910423-2-4

¥1,980〔税込〕



9 78 4 991 0423 24



地下鉄サリン事件はなぜ防げなかったのか～元警察庁刑事局長 30 年後の証言～

垣見隆 著
朝日新聞出版

オウム捜査の最高責任者だった元警察庁刑事局長が、「松本サリン事件」「地下鉄サリン事件」「警察庁長官狙撃事件」など一連の事件について、当時の資料やメモをもとに初めて証言。捜査の全内幕を語る。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 327p
978-4-02-252031-9

¥2,090〔税込〕



9 78 4 02 2520 319



高千穂伝説殺人事件(角川文庫)

内田 康夫 著
角川書店

美貌のヴァイオリニスト・千恵子の父が謎のこぼれを残し、突然失踪した。千恵子は私立探偵・浅見の助けを借り、神話と伝説の国・高千穂へと向かう。そこに隠された巨大な秘密とは。サスペンス・ミステリ。

朝日新聞 2025/04/05

1987:11./ 398p
978-4-04-160708-4

¥748〔税込〕



9 78 4 04 1607 084

水霊(角川ホラー文庫)

田中 啓文 著
角川書店

朝日新聞 2025/04/05

1998:12./ 602p



9 78 4 04 4346 5019



隙間<1>(BEAM COMIX)

高 妍 著
KADOKAWA

台湾・台北に暮らす女子大生の楊洋は、交換留学生として沖縄へと旅立った。異国の地での生活は祖母との思い出や恋の痛みを抱えたまま始まったが、人々との交流や歴史に触れる中で、少しずつ“私”を取り戻していく……。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 245p
978-4-04-738148-3

¥902〔税込〕



9 78 4 04 7381 483



逃亡くそたわけ(講談社文庫)

絲山 秋子 著

講談社

軽い気持ちの自殺未遂がばれ入院させられた「あたし」は、退屈な精神病院からの脱走を決意。名古屋出身の「なごやん」を誘い出し、彼のぼろぼろの車での逃亡が始まった。

朝日新聞 2025/04/05

2007:8./ 182p
978-4-06-275806-2

¥605〔税込〕



死都日本(講談社文庫)

石黒 耀 著

講談社

西暦 20XX 年、有史以来初めての、しかし地球誕生以降、幾たびも繰り返されてきた“破局噴火”が日本に襲いかかる。噴火は霧島火山帯で始まり、南九州は壊滅、さらに噴煙は国境を越え北半球を覆う。日本は死の都となってしまうのか？

朝日新聞 2025/04/05

2008:11./ 631p
978-4-06-276195-6

¥1,210〔税込〕



新風記～日本創生録～

吉川 永青 著

講談社

日出づる国、日ノ本はいかに興ったのか。遙か昔、日向の里の跡継ぎ・彦火火出見とその兄たちは、民のためにその身を捧げ、長く苦しい旅に出て…。『古事記』『日本書紀』をベースに、立国の礎を描いた歴史スペクタクル。

朝日新聞 2025/04/05

2021:6./ 399p
978-4-06-523254-5

¥1,980〔税込〕



誤解を招いたとしたら申し訳ない～政治の言葉/言葉の政治～(講談社選書メ チエ 821)

藤川 直也 著

講談社

「そんなつもりはなかった」という言い逃れ、「誤解を招いたとしたら申し訳ない」という謝罪もどき…。こうした発言の何が問題なのか。政治から日常の場面まで、気鋭の言語哲学者がコミュニケーションのリアルを明かす。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 337p
978-4-06-538643-9

¥2,420〔税込〕



次の整理(ビッグ コミックス)

光用 千春 著

小学館

一瞬だけ隣の席になった黒川といじめられっ子の天野は 10 年振りに再会する。小説家になる夢が叶わない清掃員の黒川と、黒川の夢である売れっ子小説家になった天野。そんな 2 人が、物語をめぐる本気の「整理」を始める！

朝日新聞 2025/04/05

2025:4./ 192p
978-4-09-863382-1

¥770〔税込〕





マイブック〜2025年の記録〜(新潮文庫 ん-70-27)

新潮社

マイブックには、日付と曜日しか入っていません。これは 2025 年のあなたがつくる、世界に一冊だけの本。毎日使い続けて完成させたなら、他のどの本よりも記憶に残る、とっておきの「自分の本」になっているはずですよ。

2024:10./ 399p
978-4-10-120877-0

¥473 [税込]



朝日新聞 2025/04/05



しゃぼん玉(新潮文庫)

乃南 アサ 著

新潮社

女性や老人だけを狙った通り魔や強盗傷害を繰り返し、自暴自棄な逃避行を続けていた伊豆見翔人は、宮崎県の山深い村で、老婆と出会った。卑劣な狂犬、翔人の自堕落で猛り狂った心を村人たちは優しく包み込むのだが.....。

2008:1./ 326p
978-4-10-142546-7

¥649 [税込]



朝日新聞 2025/04/05



くますけと一緒に 改版新装版(中公文庫 あ 58-9)

新井 素子 著

中央公論新社

ぬいぐるみの「くますけ」を片時も離すことができない成美は、事故で両親を亡くし、ママの親友の裕子さんに引き取られる。裕子さんは成美にとっても優しいけれど、くますけ以外は信じることができない成美は....。

2025:1./ 285p
978-4-12-207599-3

¥968 [税込]



朝日新聞 2025/04/05



ある男(文春文庫 ひ 19-3)

平野 啓一郎 著

文藝春秋

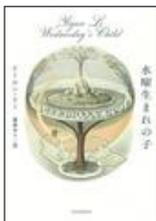
弁護士の城戸はかつての依頼者・里枝から奇妙な相談を受ける。里枝は故郷に戻り「大祐」と再婚。ある日、「大祐」は事故で命を落とすが、「大祐」が全くの別人だという衝撃の事実が...。2022年公開映画の原作。

2021:9./ 369p
978-4-16-791747-0

¥924 [税込]



朝日新聞 2025/04/05



水曜生まれの子

イーユン・リー 著

河出書房新社

水曜生まれは悲しみにくれ、木曜生まれは旅に出る-。喪失、孤独、ユーモア、優しさ...。心の内に秘める思いが鋭く豊かに描かれた、イーユン・リーの短編集。全11編を収録。

2025:2./ 307p
978-4-309-20918-0

¥2,695 [税込]



朝日新聞 2025/04/05



月面フォトアトラス～精細画像で読み解く月の地形と地質～

白尾 元理 著
誠文堂新光社

月面写真撮影の第一人者が撮影した精細な月面画像を収録。実際に月を観察する際に分かりやすいよう、月齢ごとや月の表側をエリアに分け、月の地形(クレーター、山脈、谷など)の位置を明示。その地名や地形を解説する。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 239p
978-4-416-52409-1

¥4,840〔税込〕



恐怖とパニックの人類史

ロバート・ペッカム 著
東京堂出版

様々な種類の恐怖を作り出すことで様々な政治体制が可能になり、経済秩序の台頭もまた国が後押しする恐怖が重要な役割を果たした。ペスト、金融危機、一党独裁…。恐怖の歴史を辿り、人々を支配し、従わせるものの正体に迫る。

朝日新聞 2025/04/05

2025:3./ 510p
978-4-490-21108-5

¥5,940〔税込〕



「最高のビジネス人脈」が作れる食事の戦略

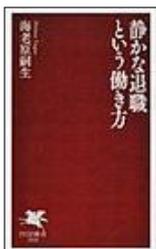
古河 久人 著
東洋経済新報社

50歳からでも内向型でも最高の人間関係を作れた著者が、食事(会食)をしながら楽しくビジネス人脈・交友関係を広げていく方法を紹介する。好感度が上がる手土産、予約のとれない店を予約する奥義も掲載。

朝日新聞 2025/04/05

2024:12./ 252p
978-4-492-04781-1

¥1,760〔税込〕



静かな退職という働き方(PHP新書 1424)

海老原 嗣生 著
PHP研究所

仕事は最低限だけでプライベート重視の「静かな退職」は、非難されるべき働き方なのか、それともビジネスパーソンの「忙しい毎日」を変える福音となるのか。日本に広がっている新しい働き方を「雇用のカリスマ」が解き明かす。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 206p
978-4-569-85879-1

¥1,210〔税込〕



白人になれない白人たち～中欧の反リベラリズムとレイシズム～

アイヴァン・カルマー 著
彩流社

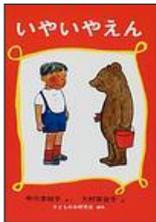
世界に広がる反リベラル現象。その最前線である中欧で何が起きているのか？ 中欧出身の文化人類学者が、民主主義の危機の背景にある「白人」間の人種差別(レイシズム)を解き明かす。

朝日新聞 2025/04/05

2025:1./ 396p
978-4-7791-3020-5

¥3,960〔税込〕





いよいよえん～童話～(福音館創作童話シリーズ)

中川李枝子 著
福音館書店

ちゅーりっぷほいくえんには子どもが30人います。しげるは、ばらぐみにいます。来年学校に行くほしぐみのみんなは威張っているのですが…。元気なしげるがくりひろげる、保育園でのお話。

朝日新聞 2025/04/05

2002:3./ 177p
978-4-8340-0010-8

¥1,430〔税込〕



ミアキス・シンフォニー

加藤シゲアキ 著
マガジンハウス

大学や和食屋を舞台に、一つの場面を異なる視点からたどっていくうちに交錯していく登場人物たち。そして物語の中心人物がわかったとき、さらなるシンフォニーが奏でられる…。『anan』連載を加筆修正。

朝日新聞 2025/04/05

2025:2./ 277p
978-4-8387-3306-4

¥1,980〔税込〕



羊皮紙をめぐる冒険

八木健治 著
本の雑誌社

日本の風呂場で羊皮紙を作る！独学で製法・文化を探究し、羊皮紙発祥の地ペルガモンの職人に認められる世界的専門家になった著者の奮闘記。「犬ガムで羊皮紙づくりプチ体験」も収録。

朝日新聞 2025/04/05

2024:12./ 227p
978-4-86011-494-7

¥1,980〔税込〕



霊性の日本思想～境界を越えて結びあう～

末木 文美士 著
岩波書店

日本の思想において、「霊性」はいかに捉えられてきたのか。霊性を軸に新たな思想史の可能性を提示。生者と死者の共存、精神的結合を追求する社会のあり方などを、豊かな思想の水脈から問い直す。『ひらく』掲載を単行本化。

朝日新聞 2025/04/12

2025:2./ 308p
978-4-00-025678-0

¥3,300〔税込〕



雨の日の心理学～こころのケアがはじまったら～

東畑 開人 著
KADOKAWA

臨床心理士による、家庭や職場で誰かをケアする人が元気であるためのやさしい授業。こころのケアの本質から小手先の技術までを惜しみなく紹介し、日常で使える「さく技術」「おせっかいの技術」なども掲載する。

朝日新聞 2025/04/12

2024:9./ 347p
978-4-04-114887-7

¥1,760〔税込〕





兄〜私だけが知るアントニオ猪木〜

猪木 啓介 著

講談社

空白のブラジル時代、力道山との出会い、倍賞美津子との結婚、新日本プロレス旗揚げ、新宿伊勢丹襲撃事件…。アントニオ猪木の実弟・猪木啓介が、「人間・猪木寛至」のすべてを明かす。

朝日新聞 2025/04/12

2025:2./ 295p
978-4-06-538977-5

¥1,980〔税込〕



深夜特急<1> 新版 香港・マカオ(新潮文庫 さ-7-51)

沢木 耕太郎 著

新潮社

インドのデリーからイギリスのロンドンまで、乗合いバスで行ってみたい。26歳の<私>は、仕事を投げ出して旅に出た。1は、旅の発端と、香港、マカオ、山口文憲との対談、「あの旅をめぐるエッセイ1」を収録。

朝日新聞 2025/04/12

2020:7./ 270p
978-4-10-123528-8

¥693〔税込〕



平等とは何か〜運、格差、能力主義を問いなおす〜(中公新書 2846)

田中 将人 著

中央公論新社

人生は運と能力しだい？ 不平等の何がわるいのか。富や権力の偏り、少数支配を超えられるか。ロールズ、サンデル、ピケティらの熱き議論をたどり、現状打破の道筋を示す。

朝日新聞 2025/04/12

2025:3./ 248p
978-4-12-102846-4

¥990〔税込〕



ものごころ

小山田 浩子 著

文藝春秋

子供が飲み込んでしまったスモモの種はいつ出てくるのか。2人の少年が川原で拾った、怪我をした犬の命運は…。色あざやかな「子供の世界」を描いた9篇の短篇を収録する。

朝日新聞 2025/04/12

2025:2./ 194p
978-4-16-391942-3

¥2,200〔税込〕



夢見る帝国図書館(文春文庫 な 68-4)

中島 京子 著

文藝春秋

友人から依頼された「日本で最初の国立図書館の小説」を綴りながら、涙もろい大学教授や飄々たる元藝大生らと共に思い出をたどり、友人の人生と幻の絵本の謎を追い…。本を愛した人々の物語。

朝日新聞 2025/04/12

2022:5./ 462p
978-4-16-791872-9

¥891〔税込〕





ポスト・ヨーロッパ～共産主義後をどう生き抜くか～

スラヴェンカ ドラクリッチ 著
人文書院

東側の人々を失望させたものは何か。民主主義への不信はどこへ向かうのか。オルバーン首相に支持が集まるのはなぜか。共産主義終焉から 30 年を迎えた東欧の、現在の政治的・社会的問題を垣間見られる政治的ルポルタージュ。

朝日新聞 2025/04/12

2023:2./ 278p
978-4-409-24151-6

¥3,300〔税込〕



フッサール入門(ちくま新書 1846)

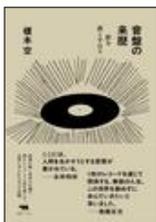
鈴木 崇志 著
筑摩書房

一生をかけて愚直に著述を重ね、認識をめぐる哲学の根本問題と対峙し、現代哲学を切り拓いたフッサール。超越論的還元、エポケー、直観といったエッセンスを平易に解きほぐしながら、フッサールの哲学的思考を追いかける。

朝日新聞 2025/04/12

2025:3./ 288p
978-4-480-07673-1

¥1,034〔税込〕



音盤の来歴～針を落とす日々～

榎本空 著
晶文社

虐殺が続く世界の片隅で、静かにレコードに針を落とす。ブルーズ、ジャズ、ロック、ソウル…。今も保持する愛着の深い音盤群と、アメリカと沖縄で出会った心やさしき人々との交流をもとに綴る生活の記録。

朝日新聞 2025/04/12

2025:3./ 237p
978-4-7949-7463-1

¥1,980〔税込〕



ウミガメ博物学～砂浜とウミガメとヒトのはなし～

亀崎直樹 著
南方新社

NPO 法人日本ウミガメ協議会を発足させ、長年日本のウミガメ界を牽引してきた著者が贈る、愉快で胸打つ 55 の話。ウミガメの生態、ウミガメの産卵に重要な砂浜の現状、ウミガメを見守ってきた人々などについて綴る。

朝日新聞 2025/04/12

2025:2./ 225p 図版 16p
978-4-86124-521-3

¥1,980〔税込〕



FREE～歴史の終わりで大人になる～

レア・イピ 著
勁草書房

社会主義下の粛清と困窮の中にあっても自由への期待に満ちた少女時代は、抗議行動の高まりで一変。自由選挙と市場開放に続く構造改革、移民増加等は激しい暴動に発展し…。気鋭の哲学者がアルバニアでの少女時代を綴る。

朝日新聞 2025/04/12、日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 337p
978-4-326-85204-8

¥3,300〔税込〕





絵本とは何か～起源から表現の可能性まで～

松本 猛 著
岩波書店

絵本は、絵とテキストの融合によって生みだされる総合芸術の一ジャンル。数多くの作品を取り上げながら絵本の歴史をたどり、多様な表現の技法やスタイル、テーマを解説し、その魅力と可能性について縦横無尽に語る。

朝日新聞 2025/04/12、日本経済新聞 2025/04/19

2025:2./ 238p
978-4-00-022319-5

¥2,750〔税込〕



心の窓

沢木 耕太郎 著
幻冬舎

開けてごらん「旅の窓」を。感じてごらん「心の窓」で。沢木耕太郎のフォトエッセイ「旅の窓」の続編。旅先で撮った81枚の写真と、その情景から想起する人生の機微を綴ったエッセイを収録。『VISA』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/04/13

2024:5./ 167p
978-4-344-04271-1

¥1,100〔税込〕



問題。～以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい～

早見和真 著
朝日新聞出版

小学6年生の十和は、家族の幸せの形が分からない。ここから逃げ出したい。十和は祖母が一人暮らす大阪の私立中学に進む決意をし…。中学受験を通して家族の成長を描く長編小説。『小説トリッパー』連載を単行本化。

朝日新聞 2025/04/19

2025:3./ 354p
978-4-02-252029-6

¥1,760〔税込〕



さざなみの彼方(集英社文庫 歴史時代 さ68-2)

佐藤 零 著
集英社

時は戦国。幼い頃に二度落城に遭い、父母が自害している茶々(淀殿)と生まれた時から共に育った大野治長は、戦乱の中で彼女を一生守ろうと誓うが…。運命に翻弄される2人の姿を描く、歴史恋愛小説。

朝日新聞 2025/04/19

2025:3./ 414p
978-4-08-744755-2

¥990〔税込〕



日本政治学史～丸山眞男からジェンダー論、実験政治学まで～(中公新書 2837)

酒井 大輔 著
中央公論新社

丸山眞男、升味準之輔、京極純一、レヴァイアサン・グループ、佐藤誠三郎、佐々木毅…。個々の政治学者にスポットをあて、日本の「科学としての政治学」がどのような軌跡を経て現在に至ったのか、その歴史を辿る。

朝日新聞 2025/04/19

2024:12./ 312p
978-4-12-102837-2

¥1,188〔税込〕





小説を書くということ(中公文庫 つ3-31)

辻邦生 著
中央公論新社

小説とは、言葉でつくる箱のなかに世界を入れること。作家志願者に向けた講座「言葉の箱」、フィクション論から自作歴史小説での史料活用法まで、貧血化し機能化する散文に対する、豊饒な文学世界の実現へと誘う創作講義。

朝日新聞 2025/04/19

2025:3./ 296p
978-4-12-207632-7

¥1,100〔税込〕



輪島屋おなつの春待ちこんだて(徳間文庫 徳間時代小説文庫 は46-2)

馳月基矢 著
徳間書店

故郷の味を振る舞う店が軒を連ねる「ふるさと横丁」の一角にある輪島屋で働くおなつ。蝦夷地の探索を任された許嫁・丹十郎の帰りを待っているが、一向に彼は帰ってこない。不安がこみ上げるおなつを訪ねてきたのは…。

朝日新聞 2025/04/19

2025:3./ 234p
978-4-19-895013-2

¥836〔税込〕



空間へ(河出文庫 い39-1)

磯崎 新 著
河出書房新社

世界的建築家・磯崎新。その軌跡の第一歩となる伝説的単著。著者本人が「日付のついたエッセイ」と呼ぶように、1960年代を通じてさまざまな媒体に記された論文・エッセイをクロノロジカルに収録する。

朝日新聞 2025/04/19

2017:10./ 578p
978-4-309-41573-4

¥1,540〔税込〕



「太陽の塔」岡本太郎と7人の男(サムライ)たち～48年目の誕生秘話～

平野 暁臣 著
青春出版社

太郎に選ばれた誇りと自負心、太郎との衝突、ビジネスを超えた無条件の情熱…。岡本太郎のもとで<太陽の塔>の建設に携わった男たちが、当事者しか知り得ない知られざる真実を語った証言集。

朝日新聞 2025/04/19

2018:1./ 249p
978-4-413-23071-1

¥1,430〔税込〕



桂米朝が遺した宝もの

小澤 紘司／桂米朝門弟一同 著
淡交社

2025年に生誕100年を迎える上方落語の巨匠・桂米朝の軌跡を、遺された「モノの宝もの」と「ヒトの宝もの」から辿る。座談会も収録。『朝日新聞』関西版連載記事に、直弟子の書き下ろし等を加えて書籍化。

朝日新聞 2025/04/19

2025:2./ 269p
978-4-473-04661-1

¥2,750〔税込〕





飛脚は何を運んだのか〜江戸街道輸送網〜(ちくま新書 1841)

巻島 隆 著
筑摩書房

江戸時代を“脚”で下支えした飛脚。その成り立ちから制度の変遷、ビジネス化成功の裏話、やり取りされた手紙の内容まで、江戸時代の輸送の全貌を解き明かす。

朝日新聞 2025/04/19

2025:2./ 411p
978-4-480-07668-7

¥1,430 [税込]



9 78 44 80 07 66 87



眼の神殿〜「美術」受容史ノート〜(ちくま学芸文庫 キ30-1)

北澤 憲昭 著
筑摩書房

高橋由一の「螺旋展画閣」。その形象をなぞるようにして、「美術」概念の受容にまつわる思考が結晶化してゆく。制度-施設史を支柱として、さまざまな次元にわたる明治期の史料がざわめきたつライブ感に充ちた歴史叙述。

朝日新聞 2025/04/19

2020:12./ 460p
978-4-480-51023-5

¥1,650 [税込]



9 78 44 80 51 02 35



検証治安維持法〜なぜ「法の暴力」が蔓延したのか〜(平凡社新書 1072)

荻野 富士夫 著
平凡社

治安維持法は、国体の変革または私有財産制度の否認を目的とする結社の処罰を主旨としたが、社会運動全体を封殺、取締対象は一般市民にも及び、廃止まで10万人超が検挙された。稀代の悪法を多角的に検証する。

朝日新聞 2025/04/19

2024:12./ 502p
978-4-582-86072-6

¥1,980 [税込]



9 78 45 82 86 07 26



ブック・ウォーズ〜デジタル革命と本の未来〜

ジョン・B・トンプソン 著
みすず書房

電子書籍、オーディオブック、本のサブスク…。デジタル革命が書籍サプライチェーンを破壊して創りかえた歴史を、膨大な統計資料、約180件の出版・テック業界関係者インタビューから論じる。

朝日新聞 2025/04/19

2025:1./ 704p
978-4-622-09749-5

¥5,940 [税込]



9 78 46 22 09 74 95



読書アンケート〜識者が選んだ、この一年の本〜<2024>

みすず書房 編
みすず書房

加藤尚武(ヘーゲル研究)、奥山淳志(写真家)、廣野由美子(英文学)、斎藤真理子(韓国語翻訳者)…。152人の有識者が、新刊・既刊を問わず、2024年中に読んだ本の中から印象深かったものを取り上げて解説する。

朝日新聞 2025/04/19

2025:2./ 180p
978-4-622-09759-4

¥880 [税込]



9 78 46 22 09 75 94



完全版アリス物語

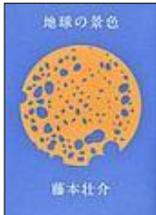
ルイス・キャロル／芥川 龍之介／菊池 寛 著
グラフィック社

「不思議の国のアリス」を芥川龍之介と菊池寛が訳し、登場人物たちをいきいきとユーモラスに描いた、今なお色あせない魅力にあふれた「アリス物語」。原書の不足を補い、注釈や解説を付した完全版。

朝日新聞 2025/04/19

2023:2./ 253p
978-4-7661-3597-8

¥2,090〔税込〕



地球の景色

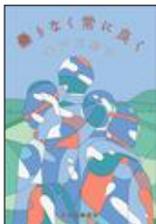
藤本壮介 著
エーディーエー・エディタ・トーキョー

世界を駆ける気鋭の建築家が、日々訪れるいろいろな場所で感じたこと、考えたこと、そこから連想して思い出されるさまざまな建築や出来事などを交えて、建築の現代と未来について綴る。『GA JAPAN』掲載を単行本化。

朝日新聞 2025/04/19

2023:4./ 533p
978-4-87140-695-6

¥3,190〔税込〕



曇りなく常に良く

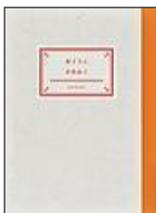
井戸川射子 著
中央公論新社

同じ高校に通う仲良し5人組。同じ時を過ごしていても、想いが同じとは限らない。少女たちの1年間を丁寧に描き出す、澄み渡る青春群像劇。『婦人公論・jp』連載を書籍化。

朝日新聞 2025/04/25

2025:3./ 155p
978-4-12-005899-8

¥1,980〔税込〕



初子さん

赤染晶子 著
p a l m b o o k s

あんパンとクリームパンしか売っていないパン屋に、初さんは下宿している。パン屋の2階で、初さんは今日もひとりミシンを踏む。表題作のほか、「うつつ・うつら」「まっ茶小路旅行店」を収録する小説集。

朝日新聞 2025/04/25

2025:4./ 187p
978-4-910976-04-4

¥2,200〔税込〕



非暴力主義の誕生～武器を捨てた宗教改革～(岩波新書 新赤版 2049)

踊 共二 著
岩波書店

宗教改革の渦中、幼児洗礼を拒むキリスト教の一派が誕生した。異端として迫害されながらも聖書の教えを守り、非暴力を貫いた彼らの信仰は、戦争の止まない現代に何を語りかけるのか。500年にわたる愛敵と赦しの軌跡を辿る。

朝日新聞 2025/04/26

2025:1./ 238p
978-4-00-432049-4

¥1,034〔税込〕





愛について～アイデンティティと欲望の政治学～(岩波現代文庫 学術 441)

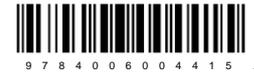
竹村 和子 著
岩波書店

セクシュアリティをはじめとし、私的領域の深奥に秘匿されてきた事柄を鋭く分析。境界を攪乱し、「語りえぬもの」に声を与える政治と倫理の新たな地平を切り拓く。精緻な理論でフェミニズム批評を牽引しつづけた著者の代表作。

朝日新聞 2025/04/26

2021:12./ 430p
978-4-00-600441-5

¥1,782 [税込]



国民主権と天皇制(講談社学術文庫 2557)

尾高 朝雄 著
講談社

不世出の法哲学者・尾高朝雄が日本国憲法施行の5カ月後に公刊した不滅の名著。「象徴」として存続した天皇は「国民主権」と矛盾しないのか。「ノモス主権論」を展開し、この根源的な問いに答える。石川健二の解説付き。

朝日新聞 2025/04/26

2019:6./ 306p
978-4-06-516271-2

¥1,430 [税込]



書とどういう芸術か～筆蝕の美学～ 増補版(中公新書 2849)

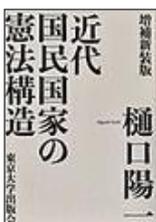
石川 九楊 著
中央公論新社

紙と筆と墨の芸術、書。筆と紙の接点に生じる力(筆蝕)こそ書の美の核心で、文字でなく言葉を書くところに書の価値はある。甲骨文から前衛書道までを読み解き、書の表現を歴史的、構造的に解明したロングセラーに新章を追加。

朝日新聞 2025/04/26

2025:3./ 272p
978-4-12-102849-5

¥1,100 [税込]



近代国民国家の憲法構造 増補新装版

樋口 陽一 著
東京大学出版会

近代憲法を論ずる際に自明のように扱われることの多い主権と人権の根源を問い、近代立憲主義を再定位する。2022年にフランスで刊行された論文集の序文の一部を日本語に書き下ろして加えた増補新装版。

朝日新聞 2025/04/26

2024:9./ 224p
978-4-13-031211-0

¥3,960 [税込]



科学的根拠で子育て～教育経済学の最前線～

中室 牧子 著
ダイヤモンド社

将来の収入を上げる教育とは？「第1志望校の最下位」と「第2志望校の1位」ではどちらが有利？さまざまなデータを駆使して得られた科学的根拠に基づいて、教育や子育てに有益な提案をする。

朝日新聞 2025/04/26

2024:12./ 311p
978-4-478-12109-2

¥1,980 [税込]





なぜ人は自分を責めてしまうのか(ちくま新書 1845)

信田 さよ子 著
筑摩書房

「すべて自分が悪い」と自分の存在を否定することで、世界の合理性を獲得する自責感。当事者の言葉を辞書として、自責感や母と娘、共依存、育児といったものにまつわる問題を考える。オンラインセミナーをもとに書籍化。

朝日新聞 2025/04/26

2025:3./ 224p
978-4-480-07674-8

¥968 [税込]



歩くという哲学～世界を動かした小説、詩、哲学は、歩行によって生まれた～

フレデリック・グロ、谷口 亜沙子 著
山と溪谷社

世界を動かした小説、詩、哲学は歩行によって生まれた。哲学的な瞑想の連続を探索しながら、ギリシア哲学、ドイツ哲学と詩、フランス文学と詩、英文学、現代アメリカ文学等の、著名な文学者、思想家の歩き方について探求する。

朝日新聞 2025/04/26

2025:2./ 303p
978-4-635-35002-0

¥2,640 [税込]



ゴースト・フォレスト

ピク・シュエン・フォン 著
左右社

中国本土返還に伴い、香港にひとり残ることを決意した父と、3歳半のとき家族とともに異国カナダに渡り、いまではNYに暮らす私。ふたりの間には微妙な距離があった...。いまを生きる中国系移民の姿を淡いタッチで描く。

朝日新聞 2025/04/26

2025:3./ 313p
978-4-86528-461-4

¥3,080 [税込]



語りたひ俳人～師を語る友を語る...24人の証言～<上>

董 振華、高野 ムツオ、中原 道夫 著
コールサック社

昭和から令和にかけて活躍した物故俳人の人物と作品について、弟子や友として直接に接した俳人・評論家たちが語る、一人語り形式の証言集。上は、「中原道夫が語る福永耕二」など、全12人の語りを収録。

朝日新聞 2025/04/27

2025:3./ 309p
978-4-86435-645-9

¥2,750 [税込]



語りたひ俳人～師を語る友を語る...24人の証言～<下>

董 振華、高野 ムツオ、津川 絵理子 著
コールサック社

昭和から令和にかけて活躍した物故俳人の人物と作品について、弟子や友として直接に接した俳人・評論家たちが語る、一人語り形式の証言集。下は、「津川絵理子が語る鷺谷七菜子」など、全12人の語りを収録。

朝日新聞 2025/04/27

2025:3./ 330p
978-4-86435-646-6

¥2,750 [税込]





探偵機械エキシマ

松城 明 著
KADOKAWA

AI 探偵・エキシマの記録係となった大学生の実沙。エキシマは、誰よりも早く殺人犯を見つけ出し、ある目的を達成しようとするが…。助手が探偵の犯行を阻止する逆転ミステリ。『小説野性時代』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

東京・中日新聞 2025/04/05

2025:2./ 217p
978-4-04-115697-1

¥2,035〔税込〕



PRIZE

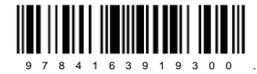
村山 由佳 著
文藝春秋

天羽カインは憤怒の炎に燃えていた。本を出せばベストセラー、映像化作品多数、本屋大賞にも輝いた。なのに、直木賞が取れない。文壇から正当に評価されない。何としてでも、認めさせてやる…。『オール讀物』連載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/04/06

2025:1./ 383p
978-4-16-391930-0

¥2,200〔税込〕



魔窟〜知られざる「日大帝国」興亡の歴史〜

森 功 著
東洋経済新報社

日本一のマンモス私大、日本大学。中興の祖「古田重二良」の呪縛、田中英壽体制の地下水脈、アメフト部薬物事件…。日大の権力と闇に光を当て、その歴史に迫る。『デジタル中央公論』『ファクタ』連載を大幅に加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2025/04/06

2024:12./ 356p
978-4-492-22425-0

¥1,980〔税込〕



満知子せんせい〜みどり、真央、昌磨と綴った愛の物語〜

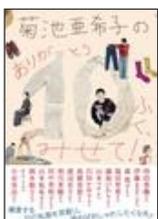
高橋 隆太郎 著
中日新聞社

伊藤みどり、浅田真央、宇野昌磨…。多くの逸材を育てたフィギュア界の希代の指導者、山田満知子。81歳の今もリンクサイドに立ち、選手らに優しいまなざしを送るその人生をひもとく。『中日新聞』『東京新聞』連載を再編集。

東京・中日新聞 2025/04/06

2025:1./ 231p
978-4-8062-0823-5

¥1,650〔税込〕



菊池亜希子のありが10ふく、みせて!〜おしゃれな15人の偏愛アイテムを深掘り〜(天然生活の本)

菊池亜希子 著
扶桑社

持田香織、伊藤まさこ、山本マナらをゲストに、手に取るたび感謝したくなる10の服や小物「ありが10ふく」について深掘り。服への想いや自分らしくおしゃれを楽しむアイデアを紹介する。『天然生活』連載を加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2025/04/12

2025:3./ 157p
978-4-594-10008-7

¥2,090〔税込〕





「夢のエネルギー」核融合の最終解答

アーサー・タレル 著

早川書房

核融合の実現をめぐり、世界各国の政府系研究所、スタートアップ企業、投資家が熾烈な競争を繰り広げる現代。最も勝利に近いプレイヤーは？ 本当に実現できるのか？ 徹底した調査と取材で、夢のエネルギーの最前線に迫る。

東京・中日新聞 2025/04/13

2025:1./ 286p
978-4-15-210396-3

¥2,860〔税込〕



あのころ、吉祥寺には「ぐわらん堂」があった。～1970年代のカウンターカルチャー、その痛快な逆説～

村瀬 春樹 著

平凡社

高田渡、友部正人らが唄い、赤瀬川原平、長井勝一、金子光晴らが訪れた、吉祥寺にあった伝説のライブハウス「ぐわらん堂」。そのマスターが、あの時代を語る。

東京・中日新聞 2025/04/13

2025:1./ 428p
978-4-582-83977-7

¥4,950〔税込〕



ネコはどうしてニャアと鳴くの？～すべてのネコ好きに贈る魅惑のモフモフ生物学～

ジョナサン・B・ロンス 著

化学同人

ネコはどう進化してイエネコになったか、人間や他の動物とどのようにかかわっているか、将来どうなるか。進化生物学の第一人者で、大のネコ愛好家でもある著者が、現代のあらゆる技術を駆使してネコの過去・現在・未来を探る。

東京・中日新聞 2025/04/13

2025:2./ 480p
978-4-7598-2400-1

¥3,630〔税込〕



織部の妻

諸田 玲子 著

KADOKAWA

古田織部と政略結婚した、戦国武将・中川清秀の妹、仙。変遷する戦国の世を2人で駆け抜けながら、共通する志を抱く夫婦となっていき…。学芸通信社の配信により『岐阜新聞』『京都新聞』に掲載したものに加筆修正し単行本化。

東京・中日新聞 2025/04/19

2025:3./ 373p
978-4-04-112363-8

¥2,310〔税込〕



ケロリン百年物語

文藝春秋

2025年に百周年を迎えた解熱鎮痛薬「ケロリン」を、音楽・映画・銭湯など、文化史の視点から分析。萩本欽一、壇蜜のインタビュー、堺正章x笹山敬輔の対談も収録する。

東京・中日新聞 2025/04/19

2025:3./ 118p
978-4-16-391962-1

¥1,430〔税込〕





追跡公安捜査

遠藤浩二 著
毎日新聞出版

捜査員からの「捏造」発言も飛び出した大川原化工機事件。真犯人が名乗り出たにもかかわらず、立件せず公訴時効を迎えた警察庁長官狙撃事件。警察組織の“失敗の本質”に迫る。『毎日新聞』本紙およびウェブ連載に加筆・修正。

東京・中日新聞 2025/04/20

2025:3./ 281p
978-4-620-32825-6

¥1,870〔税込〕



モンゴル大草原風の馬(マジック・ツリーハウス 53)

メアリー・ポップ・オズボーン 著
KADOKAWA

「大草原の国モンゴルへ行き、エコ・ボランティアになってください」というモーガンからの手紙を受け取ったジャックとアニー。魔法のツリーハウスでモンゴルに向かうと…。ジャケットそでに着せ替え人形つき。

東京・中日新聞 2025/04/26

2025:3./ 155p
978-4-04-116113-5

¥990〔税込〕



複眼人(角川文庫 コ 22-1)

呉 明益 著
KADOKAWA

太平洋の神秘的な島と、近未来の台湾。2つの島に巨大なゴミの島が押し寄せる時、謎の「複眼人」が姿を現す。人間と生物、自然と超自然的存在が交錯する世界を、作家・呉明益が圧倒的スケールと多元的視点で描く未曾有の物語。

読売新聞 2025/04/06

2025:1./ 427p
978-4-04-114689-7

¥1,430〔税込〕



君のためなら千回でも<上>(角川文庫 ホ 23-1)

カーレド・ホッセイニ 著
KADOKAWA

アフガニスタンの裕福な家に生まれた僕は、召使いのハッサンと兄弟のように育つ。1975年の風合戦の日、「君のためなら千回でも!」と風を追いかける彼を、僕は裏切り、人生を破壊してしまう。そして2001年…。

読売新聞 2025/04/06

2025:2./ 286p
978-4-04-115831-9

¥1,100〔税込〕



君のためなら千回でも<下>(角川文庫 ホ 23-2)

カーレド・ホッセイニ 著
KADOKAWA

911テロ直前の米国。ハッサンを知る友人からの電話で、僕はパキスタン行きの飛行機に飛び乗り、衝撃の事実を知る。そして、タリバンに破壊しつくされたアフガニスタンで、ハッサンの息子を救うと誓い…。

読売新聞 2025/04/06

2025:2./ 271p
978-4-04-115832-6

¥1,100〔税込〕





戦艦大和ノ最期(講談社文芸文庫)

吉田 満 著
講談社

昭和 20 年 3 月 29 日、世界最大の不沈戦艦と誇った「大和」は、必敗の作戦へと呉軍港を出港した。吉田満は前年東大法科を繰り上げ卒業、海軍少尉、副電測士として「大和」に乗り組んでいた。

1994:8./ 201p
978-4-06-196287-3

¥1,100 [税込]



読売新聞 2025/04/06



毎日読みます

ファン・ボルム 著
集英社

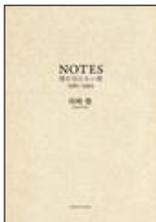
忙しい日々の中で、どうすればもっと本を読めるだろうか？ どんな本を読めばいいだろうか？ 「ようこそ、ヒュナム洞書店へ」の著者が、具体的な本や読書法を日常の悩みや喜びとともに綴る。

2025:3./ 245p
978-4-08-773529-1

¥1,980 [税込]



読売新聞 2025/04/06



NOTES〜僕を知らない僕〜

尾崎 豊 著
新潮社

尾崎豊が亡くなった時に、彼の仕事部屋には 10 年間に綴られた 50 冊以上の制作ノートがあった。ひとりの天才がどのように歌の詩や散文詩や小説などの作品に到達していったかを伺い知ることのできる貴重なノートを完全収録。

2012:4./ 415p
978-4-10-332231-3

¥2,750 [税込]



読売新聞 2025/04/06



図書館を建てる、図書館で暮らす〜本のための家づくり〜

橋本 麻里／山本 貴光 著
新潮社

約 5 万冊の蔵書を集める家<森の図書館>。2 人の施主が、普請のプロセスや、そこで過ごす中で考えた事を綴り、デジタルだけでは実現できない、「本のある空間」の効用を探る。書架写真、建築家・三井嶺の寄稿、図面等も収録。

2024:12./ 240p
978-4-10-355991-7

¥3,630 [税込]



読売新聞 2025/04/06



埋葬(中公文庫 よ 66-1)

横田創 著
中央公論新社

廃ホテルで起きた母娘死体遺棄事件。犯人と目された少年の裁判中、被害者の夫は謎の手記を発表し失踪。10 年後ジャーナリストが再取材を行うが、関係者達の証言は事件の構図を塗り替えてゆき…。犯罪小説 2 篇を併録し文庫化。

2024:11./ 300p
978-4-12-207586-3

¥990 [税込]



読売新聞 2025/04/06



習近平研究～支配体制と指導者の実像～

鈴木 隆 著
東京大学出版会

長期政権を築いた習近平とは、どのような人物なのか。彼が最高実力者となった軌跡を豊富な資料から渉猟し、中国共産党の支配、中国政治の本質に迫る。これまでに発表した学術論文や雑誌掲載記事などをまとめて書籍化。

読売新聞 2025/04/06

2025:1./ 656p
978-4-13-030194-7

¥7,700〔税込〕



きみはメタルギアソリッドV:ファントムペインをプレイする

ジャミル・ジャン・コチャイ 著
河出書房新社

ビデオゲームと一族の戦禍の歴史が融合する魔術的冒険、バラバラになった息子の肉片を縫い合わせる母親…。新世代作家による痛みと笑いのイスラム・マジックリアリズム短篇集。表題作など全 12 篇を収録する。

読売新聞 2025/04/06

2025:2./ 268p
978-4-309-20920-3

¥2,750〔税込〕



きらめく共和国(創元推理文庫 Fハ6-1)

アンドレス・バルバ 著
東京創元社

亜熱帯の町に現れた理解不能な言葉を話す 32 人の子どもたち。彼らは盗みを働き、市民を襲い、そして一斉に死亡した。事件に関わった語り手が、22 年後のいま、謎をひもといていき…。純粋で残酷な子どもたちの物語。

読売新聞 2025/04/06

2025:1./ 197p
978-4-488-55208-4

¥946〔税込〕



サーミランドの宮沢賢治

管 啓次郎／小島 敬太 著
白水社

「銀河鉄道の夜」起筆 100 年となる 2024 年 2 月。詩人と音楽家が、「北」へ憧れていた賢治の魂と言葉を、最北の地であるサーミランドに連れて行く旅を決行。賢治の詩想を追い求めてきた 2 人が本当の幸いを探る辺境紀行。

読売新聞 2025/04/06

2025:1./ 269p
978-4-560-09153-1

¥2,530〔税込〕



歌舞伎町に沼る若者たち～搾取と依存の構造～(PHP 新書 1423)

佐々木 チワワ 著
PHP 研究所

若い女性はなぜホストにハマるのか。感情労働・肉体労働・アイデンティティ労働のすべてを兼ね備えたホストの仕事から、女性客の深層心理、若者の価値観・消費行動まで、歌舞伎町の「搾取と依存の構造」を解き明かす。

読売新聞 2025/04/06

2025:2./ 225p
978-4-569-85865-4

¥1,155〔税込〕





AIを美学する～なぜ人工知能は「不気味」なのか～(平凡社新書 1076)

吉岡 洋 著
平凡社

AIは心躍る楽しい技術? それとも、違和感や不安を抱かせる存在? 「不気味さ」「騙されるということ」「身体性」といった視点を手がかりに、AIを美学の問題として考える。

2025:2./ 221p
978-4-582-86076-4

¥1,100〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



足利義政～花の御所、御所の地としてしかるべし～(ミネルヴァ日本評伝選)

木下 昌規 著
ミネルヴァ書房

室町幕府第八代将軍・足利義政は、「銀閣寺」など東山文化の評価がされる一方、政治的には無能のイメージが強い。これまで無視されてきた政治面から、客観的にその生涯を追う。

2025:3./ 386p
978-4-623-09894-1

¥3,850〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



列島縦断日本の墓～失われゆく墓石を訪ねる～

関根 達人 著
吉川弘文館

古来、人はさまざまな形で死者を悼み葬ってきた。北は択捉島から南は波照間島まで、中近世に営まれ各地に残る墓をオールカラーで紹介。墓石文化がなかったアイヌや琉球にも目を向け、社会の変化や文化の多様性を探る。

2025:1./ 160p
978-4-642-08469-7

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



役に立たないロボット～日本が生み出すすごい発想～(インターナショナル新書 153)

谷 明洋 著
集英社インターナショナル

気まぐれで、たどたどしい…。そんな「働かないロボット」が日本にはたくさんいる。なぜ彼らはつくられ、受け入れられるのか? 関係者たちへの取材を通して、その本当の価値と役割を浮かび上がらせる。

2025:2./ 269p
978-4-7976-8153-6

¥1,045〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



維新京都医学の開花～カルテを作ったお雇い外国人ヨンケル～(学術選書 117)

藤田 哲也 著
京都大学学術出版会

明治時代に来日したドイツ人医師ヨンケルは、麻酔法や消毒法、カルテを使った医療情報システムを日本に導入し、精神病治療にも革新をもたらした。彼の軌跡を掘り起こし、日本における西洋医学の黎明期を描く。

2025:2./ 208p
978-4-8140-0577-2

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



カフェの世界史(SB新書 683)

増永菜生 著

S Bクリエイティブ

世論を恐れた支配者が閉鎖令を出したコーヒーハウス、20世紀の名だたる芸術家と知識人が集ったパリのカフェ…。ミラノ在住の研究者が、大航海時代から現代まで、カフェとともに歩んできた人類の足跡を案内する。

2025:2./ 334p
978-4-8156-2882-6

¥1,100〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



パイデア~ギリシアにおける人間形成~<上>(知泉学術叢書 3)

W.イエーガー 著

知泉書館

ギリシア人の教養と理想的な人間像が相互に作用しつつ形成される経緯を描いた、イエーガーの古典的名著を訳出。上では、第1部「初期のギリシア」と第2部「アッテイカ精神の絶頂と危機」を収録。

2018:7./ 864p
978-4-86285-276-2

¥7,150〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



パイデア~ギリシアにおける人間形成~<中>(知泉学術叢書 31)

W.イエーガー 著

知泉書館

ギリシア人の教養と理想的な人間像が相互に作用しつつ形成される経緯を描いた、イエーガーの古典的名著を訳出。中は、第3部「偉大な教育者と教育体系の時代」を収録。

2024:4./ 846p
978-4-86285-408-7

¥7,150〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



パイデア~ギリシアにおける人間形成~<下>(知泉学術叢書 34)

W.イエーガー 著

知泉書館

ギリシア人の教養と理想的な人間像が相互に作用しつつ形成される経緯を描いた、イエーガーの古典的名著を訳出。下は、イソクラテスの弁論・修辞術などを扱った第3部「偉大な教育者と教育体系の時代」の後半を収録。

2024:12./ 632p
978-4-86285-425-4

¥6,050〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



戦前生まれの旅する速記者

佐々木 光子 著

双子のライオン堂出版部

速記一本で時代を駆けてきた女性の軽やかなキャリアと人生の軌跡

2024:12./ 84p
978-4-910144-12-2

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



絵本『じゅんびできた?』

星野 真里 著

双子のライオン堂出版部

「じゅんびできた?」は、都市養蜂について、楽しく可愛く学べる絵本です。

2024:12./ 32p

978-4-910144-14-6

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/04/06



世界 99<下>

村田 沙耶香 著

集英社

14年前、「リセット」を経験した人類。49歳になった空子は生まれ育った「クリーン・タウン」の実家に戻る。やっと訪れた穏やかな社会の中心には、さらに変貌したピョコロンがいて…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

2025:3./ 428p

978-4-08-770001-5

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/04/06、朝日新聞 2025/04/19、東京・中日新聞 2025/04/20



世界 99<上>

村田 沙耶香 著

集英社

性格のない人間・空子は、コミュニティごとにふさわしい人格を作り、キャラクターを使い分けて生き延びてきた。だが、ペットのかわいい生き物・ピョコロンが、とある能力を備えると…。『すばる』連載に加筆修正し単行本化。

2025:3./ 429p

978-4-08-771879-9

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/04/06、朝日新聞 2025/04/19、東京・中日新聞 2025/04/20



ケアの倫理と平和の構想 増補版(岩波現代文庫 社会 352)

岡野 八代 著

岩波書店

ケアの視点から平和を論じてきたフェミニズム。慰安婦問題、9・11、ガザなど、「正戦」「自衛」の名の下で人間を破壊する戦争の本質を明らかにし、フェミニズムによるラディカルな平和の構想を紡ぐ。対談等を加えて文庫化。

2025:2./ 408p

978-4-00-603352-1

¥1,650〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



訂正する力(朝日新書 926)

東浩紀 著

朝日新聞出版

日本にいま必要なのは「訂正する力」。保守とリベラルの対話にも、成熟した国のありかたや老いを肯定するためにも、さらにはビジネスにおける組織論、日本の思想や歴史理解にも役立つ、隠れた力を解き明かす。

2023:10./ 243p

978-4-02-295238-7

¥935〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



帝国大学の誕生(講談社学術文庫 2811)

中山 茂 著
講談社

明治19年の帝国大学の誕生は、のちの東京大学をも貫く基本性格を確立した歴史的特異点であった。伊藤博文、森有礼、井上毅ら設計者たちの政策的意図を辿りつつ、今日まで続く東大の本質とイメージの淵源を抉り出す。

読売新聞 2025/04/13

2024:3./ 213p
978-4-06-535031-7

¥1,012 [税込]



バリ山行

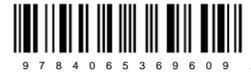
松永 K三蔵 著
講談社

会社の付き合いを避けてきたが、登山部で親睦を図る気楽な活動をするようになった波多。職場で孤立するベテラン妻鹿が、あえてルートから外れる危険で難易度の高い「バリ山行」をしていると知り…。『群像』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/04/13

2024:7./ 161p
978-4-06-536960-9

¥1,760 [税込]



手段からの解放～シリーズ哲学講話～(新潮新書 1072)

國分 功一郎 著
新潮社

「楽しむ」とはどういうことか。カントの哲学をヒントに、人間の行為を目的と手段に従属させようとする現代社会の病理に迫る。『新潮』掲載の論考と2023年に行った東京大学での講話の記録を改稿・加筆して収録。

読売新聞 2025/04/13

2025:1./ 207p
978-4-10-611072-6

¥968 [税込]



戦争と音楽～京極高鋭、動員と和解の昭和史～(中公選書 156)

古川 隆久 著
中央公論新社

華族の家に生まれ、のちの昭和天皇の御相手を務め、音楽ジャーナリストとなり演奏家と親交を深め、戦時下には「愛国行進曲」をプロデュースし、戦後東京オリンピック開催に関わった京極高鋭の人生から近代日本の矛盾を探る。

読売新聞 2025/04/13

2025:3./ 368p
978-4-12-110158-7

¥2,530 [税込]



まともがゆれる～常識をやめる「スウィング」の実験～

木ノ戸 昌幸 著
朝日出版社

「べき」や「ねば」といった既存の仕事観・芸術観に疑問符を投げかけながら様々な創造的実践を繰り広げている障害福祉 NPO 法人スウィングの実践を紹介する。稲垣えみ子の寄稿、利用者たちの“自由すぎる詩”も収録。

読売新聞 2025/04/13

2019:1./ 223p
978-4-255-01097-7

¥1,716 [税込]





病原菌と人間の近代史～日本における結核管理～

塩野 麻子 著
人文書院

結核の全人口的な感染が予期された近代日本社会において、感染後の身体はいかに統御されるのか。結核史における「潜在的なもの」を主題化することで従来の見方を再構成し、新たな視座を提示する。

2025:1./ 293p
978-4-409-52094-9

¥7,150〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



10の法則で読むくずし字入門

根本 知 著
淡交社

平安人も親しんだ「くずし字」の読みかた入門書。10ステップにまとめた「くずし字読解の法則」を、初心者にもわかりやすく解説。それをもとに、禅語、和歌といった手本を読み解く。章末には問題も収録。

2025:2./ 159p
978-4-473-04662-8

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



かわり方のまなび方～ワークショップとファシリテーションの現場から～ (ちくま文庫 に8-3)

西村 佳哲 著
筑摩書房

力を引き出すのがうまいとか、あの人といると伸びると言わせる人たちは何が違うんだろう？働き方研究家が、ワークショップやファシリテーションの世界を訪ね歩く。「補稿西原由記子さんの言葉」を追加。

2014:10./ 372p
978-4-480-43203-2

¥924〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



有吉佐和子ベスト・エッセイ(ちくま文庫 あ68-1)

有吉 佐和子／岡本 和宜 著
筑摩書房

研ぎ澄まされた美意識、旺盛な好奇心と行動力。歴史から社会まで、幅広いテーマを扱った昭和のベストセラー作家、有吉佐和子の人物像や創作の現場がうかがえるエッセイとルポルタージュをまとめた、オリジナル・アンソロジー。

2025:1./ 376p
978-4-480-44006-8

¥990〔税込〕



読売新聞 2025/04/13



考古学者だけど、発掘が出来ません。多忙すぎる日常

青山 和夫／大城 道則／角道 亮介 著
ポプラ社

毎日17時間労働、2泊4日のエジプト弾丸ツアー、毎日300ページ以上の英語文献を読む…。忙しすぎて発掘調査が出来ません！とにかく休みが来ない3人の考古学者たちが、「働き方改革」とは無縁な日々を綴る。

2025:2./ 254p
978-4-591-18406-6

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2025/04/13

綿の国星<第1巻> シルク・ムーン プチ・ロード(白泉社文庫)

大島 弓子 著

白泉社

読売新聞 2025/04/13

1994:6./ 270p
978-4-592-88061-5

¥649〔税込〕



日本とフランスのカワイイ文化論～なぜ私たちは「かわいく」なければならなかったのか～

高馬 京子 著

明石書店

日本文化の特質として語られてきた「かわいい」という概念の日本における位置づけの変遷を追うとともに、フランスでクールなポップカルチャーとして受容されていく様を、ジェンダーの観点も交えて社会的に考察する。

読売新聞 2025/04/13

2025:2./ 348p
978-4-7503-5890-1

¥3,520〔税込〕



弱さでつながり社会を変える～渡邊洋次郎対談集～

渡邊洋次郎 著

現代書館

非行・犯罪行為を繰り返し、薬物・アルコール依存と共に生きる編著者が、多様な領域の実践者・研究者と対談。生きづらさを抱えながら、みんなで「なんとか生きていく」方法を探る。

読売新聞 2025/04/13

2023:12./ 142p
978-4-7684-5946-1

¥1,760〔税込〕



エクソシストは語る～エクソシズムの真実～

田中 昇 著

集英社インターナショナル

カトリック教会の伝統的な儀式であるエクソシズムは、単なる魔術的、オカルト的なものではない。日本で正式に任命されエクソシストとして2年間活動していた著者が、実際の儀式の体験談、その実態、悪魔についてすべて答える。

読売新聞 2025/04/13

2025:2./ 292p
978-4-7976-7459-0

¥2,530〔税込〕



強制送還の国際社会学～「ヒスパニック」系移民とアメリカのゆくえ～

飯尾 真貴子 著

名古屋大学出版会

「史上最大」とも称される国外追放政策は移民社会に何をもちたらずのか。米国とメキシコをつなぐ調査を通して、取締り・収容から帰国後のさらなる困難、再移動の試みまで、強制送還の全容を描き出す。移民論の新領域を拓く書。

読売新聞 2025/04/13

2025:2./ 334p
978-4-8158-1190-7

¥7,480〔税込〕





絵解き風流子ども歳時記

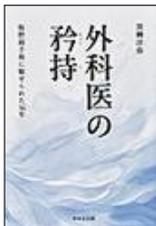
尾原昭夫 著
柳原出版

お正月、雛人形、端午の節句、夏の夜の怪談…。四季折々の行事や子どもの遊びを、古代から近・現代までの文献と、絵巻、屏風絵、絵本その他の絵画資料にもとづき解説。それにちなむわらべうたも掲載する。楽譜付き。

読売新聞 2025/04/13

2025:3./ 241p
978-4-8409-0094-2

¥5,170 [税込]



外科医の矜持～腹腔鏡手術に魅せられた36年～

黒柳 洋弥 著
ゆみる出版

医学生時代、最初の吻合、ニューヨーク留学、メスの限界…。主に大腸がんの手術をする消化器外科医である著者が、どのようにして腹腔鏡大腸外科医になったのか自身の半生を振り返りながら、その奥深さや喜びを伝える。

読売新聞 2025/04/13

2025:3./ 202p
978-4-946509-60-5

¥1,870 [税込]



美土里倶楽部

村田喜代子 著
中央公論新社

昨日までそばにいた夫は、いったいどこに行ってしまったのだろう。夫を亡くしたばかりの美土里は、彼の忘れ物をきっかけに3人の女たちと知り合い…。『未亡人倶楽部』の1年間を描いた長編。『中央公論』連載を単行本化。

読売新聞 2025/04/13、東京・中日新聞 2025/04/27

2025:3./ 241p
978-4-12-005898-1

¥2,420 [税込]



わたしは楳図かずお～マンガから芸術へ～

楳図かずお／石田汗太 著
中央公論新社

かつて日本中の子どもたちを恐怖のどん底に陥れた天才マンガ家・楳図かずおが、父と母、自然、文明、そしてマンガのことを語った自伝。デビュー前の肉筆回覧誌から貴重な作品2点をカラー図版で収載。

読売新聞 2025/04/13、毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 221p 図版 11
枚

978-4-12-005894-3

¥2,530 [税込]



甘粕大尉 増補改訂版(朝日文庫 つ21-1)

角田房子 著
朝日新聞出版

大杉栄虐殺、満洲建国暗躍、満鉄理事長、そして自決…。大正・昭和の最暗部を生き抜いた憲兵大尉・甘粕正彦。膨大な資料と親族、関係者への綿密な取材で、その実像を掘り起こした名著を文庫化。

読売新聞 2025/04/20

2025:4./ 396p
978-4-02-262111-5

¥1,430 [税込]





リペアラー

大沢 在昌 著

KADOKAWA

六本木のビルの屋上で見つかった男性の遺体。警察は事件性もなく、身許不明の「行旅死亡人」として処理するが、想一らが調べると、ある奇妙な人物に行き着き…。学芸通信社の配信により各紙にて掲載したものに加筆修正。

読売新聞 2025/04/20

2025:2./ 459p

978-4-04-114263-9

¥2,310〔税込〕



絶望の国の幸福な若者たち(講談社+α 文庫 G256-2)

古市 憲寿 著

講談社

格差社会のもと、その「不幸」が報じられる若者たち。しかし統計では8割以上の若者が現在の生活に「満足」している。その指摘で若者論を一新した著者の代表作に約200の脚注を追加して文庫化。俳優・佐藤健との対談も収録。

読売新聞 2025/04/20

2015:10./ 428p

978-4-06-281612-0

¥858〔税込〕



窓ぎわのトットちゃん 新組版(講談社文庫 <10-2)

黒柳 徹子 著

講談社

「きみは、本当は、いい子なんだよ!」校長先生はトットちゃんにいつもそう言った。トモエ学園の個性を伸ばす教育と、そこに学ぶ子供たちを生き生きと描いた名作。字が大きくて読みやすく、絵も鮮明に美しくなった新組版。

読売新聞 2025/04/20

2015:8./ 377p

978-4-06-293212-7

¥880〔税込〕



ほんとうの会議〜ネガティブ・ケイパビリティ実践法〜(講談社現代新書 2768)

帚木 蓬生 著

講談社

言いつ放し、聞きつ放しの会議が、なぜこれほど人生を豊かにするのか。自助グループのミーティングや精神科の治療法「オープン・ダイアログ」をもとに、「不毛な会議」観を根底から変える新しいミーティングの形を紹介する。

読売新聞 2025/04/20

2025:3./ 246p

978-4-06-539011-5

¥1,078〔税込〕



市村弘正著作集<上巻>

市村 弘正 著

集英社

丸山眞男と藤田省三の水脈に立つ思想家・市村弘正の全仕事を集成。上巻は、「「名づけ」の精神史」「標識としての記録」「小さなものの諸形態 精神史覚え書」の3冊を収録。

読売新聞 2025/04/20

2025:3./ 432p

978-4-08-789019-8

¥3,960〔税込〕





官僚たちの夏 改版(新潮文庫)

城山 三郎 著

新潮社

読売新聞 2025/04/20

2002:3./ 352p
978-4-10-113311-9

¥781〔税込〕



思い出トランプ(新潮文庫)

向田 邦子 著

新潮社

日常生活の中で、誰もがひとつやふたつは持っている弱さや、狡さ、後ろめたさを、人間の愛しさとして捉えた13編。直木賞受賞作「花の名前」「犬小屋」「かわうそ」を収録。

読売新聞 2025/04/20

1983:5./ 225p
978-4-10-129402-5

¥649〔税込〕



最終戦争論 改版(中公文庫 い61-2)

石原 莞爾 著

中央公論新社

読売新聞 2025/04/20

2001:9./ 124p
978-4-12-203898-1

¥607〔税込〕



団塊の世代 新版(文春文庫)

堺屋 太一 著

文芸春秋

「団塊の世代」が日本の経済社会になにをもたらすのかを予言した名著。今後の大量定年、高齢化問題への対策を新たに加えた新装版

読売新聞 2025/04/20

2005:4./ 301p
978-4-16-719320-1

¥523〔税込〕



やなせたかしの生涯〜アンパンマンとぼく〜(文春文庫 か68-3)

梯 久美子 著

文芸春秋

自分の顔を食べさせる前代未聞のヒーロー「アンパンマン」の作者・やなせたかしは、「手のひらを太陽に」を作詞するなど、詩人としても知られる。生きることを肯定し、光にむかって歩き続けたその生涯を、評伝の名手が綴る。

読売新聞 2025/04/20

2025:3./ 269p
978-4-16-792346-4

¥770〔税込〕



投票の倫理学〜ちゃんと投票するってどういうこと?〜<上>

ジェイソン・ブレナン 著

勁草書房

私たちは投票にあたっていかなる態度を取るべきなのか。常識を正面から疑い、真剣に投票すること、また投票を棄権することの意味を深く緻密に考える。極めてアクチュアルな政治的・倫理的考察。

読売新聞 2025/04/20

2025:1./ 216p
978-4-326-35194-7

¥3,300〔税込〕





投票の倫理学～ちゃんと投票するってどういうこと?～<下>

ジェイソン・ブレナン 著

勁草書房

私たちは投票にあたっていかなる態度を取るべきなのか。常識を正面から疑い、真剣に投票すること、また投票を棄権することの意味を深く緻密に考える。極めてアクチュアルな政治的・倫理的考察。

読売新聞 2025/04/20

2025:1./ 248p
978-4-326-35195-4

¥3,300〔税込〕



芸術起業論(幻冬舎文庫 む-10-1)

村上 隆 著

幻冬舎

海外で作品が高額で取引される村上隆が、他の日本人アーティストと大きく違ったのは、世界基準の戦略を立てたこと。稀代の芸術家が、熱い情熱と冷静な分析をもって、アートとビジネスの関係を語る。

読売新聞 2025/04/20

2018:12./ 230p 図版
16p
978-4-344-42814-0

¥594〔税込〕



宮沢賢治全集<1> 春と修羅・春と修羅補遺・春と修羅 第二集(ちくま文庫)

宮沢賢治 著

筑摩書房

読売新聞 2025/04/20

1986:2./ 744p
978-4-480-02002-4

¥1,320〔税込〕



終わりなき日常を生きろ(ちくま文庫)

宮台 真司 著

筑摩書房

読売新聞 2025/04/20

1998:3./ 204p
978-4-480-03376-5

¥704〔税込〕



誘拐(ちくま文庫)

本田 靖春 著

筑摩書房

読売新聞 2025/04/20

2005:10./ 361p
978-4-480-42154-8

¥880〔税込〕



日本列島改造論 復刻版

田中 角榮 著

日刊工業新聞社

1972年の発売当時、政策本としては異例の91万部を超える大ベストセラーとなった書籍を復刻。田中角榮が敗戦後に描いた理想の実相と実現に向けた具体策を明かす。娘・眞紀子からみた父の姿等を記した寄稿も新たに収録。

読売新聞 2025/04/20

2023:3./ 247p
978-4-526-08270-2

¥1,980〔税込〕





行動経済学で「未知のワクチン」に向き合う

佐々木 周作、大竹 文雄、齋藤 智也 著

日本評論社

行動経済学者と感染症学者がチームを組みパンデミック下の未知のワクチンに挑んだ。コロナ危機の政策現場に寄り添いながら試行錯誤を繰り返し…。行動経済学という学問の視点で、予防接種を促す政策とその背景を紹介する。

2025:1./ 340p
978-4-535-54074-3

¥2,420〔税込〕



読売新聞 2025/04/20



ブリス・モンタージュ(エクス・リブリス)

リン・マー 著

白水社

中国出身の米国作家が現代アメリカの心象風景を巧みに切り取る短篇集。近未来の世界で覇権を手放したアメリカに暮らす主人公の奇妙な帰郷を描く「明日」、2023年オー・ヘンリー賞選出「オフィスアワー」など全8篇を収録。

2025:3./ 236p
978-4-560-09095-4

¥3,080〔税込〕



読売新聞 2025/04/20



山本五十六の戦争(毎日文庫 ほ 2-1)

保阪正康 著

毎日新聞出版

日米開戦回避の志に反して真珠湾作戦を指揮し、早期講和を念じながら、ミッドウェー海戦に臨んだ山本五十六。戦後80年を経た現在も評価の分かれる悲劇の提督の実像を考察し、あり得たもう一つの終戦のかたちを探る評伝。

2025:1./ 269p
978-4-620-21079-7

¥1,100〔税込〕



読売新聞 2025/04/20



ルポ秀和幡ヶ谷レジデンス

栗田シメイ 著

毎日新聞出版

東京・渋谷区の一等地にとんでもないマンションがある。大量の謎ルール、25年超の不透明な独裁体制…そこは、通称「渋谷の北朝鮮」。マンション自治を取り戻すべく立ち上がった住民たちの1200日の記録。

2025:3./ 238p
978-4-620-32826-3

¥1,760〔税込〕



読売新聞 2025/04/20



アドルフ・ヒトラーの一族～独裁者の隠された血筋～(草思社文庫 シ 3-1)

ヴォルフガング・シュトラール 著

草思社

アドルフ・ヒトラーは自分の出生の秘密を生涯隠し通した。自分の過去にまつわる痕跡を徹底的に削除したのである。そのスキャンダラスな出自と家庭環境を、多数の未公開資料や当事者の証言をもとに明らかにする。

2025:2./ 375p
978-4-7942-2770-6

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2025/04/20



豊臣政権の統治構造

谷 徹也 著

名古屋大学出版会

秀吉の天下統一は日本・東アジアの近世化をいかに導いたのか。それは単なる専制だったか。実務を担う奉行と自律的な在地社会の交渉から複数の首都の成立、朝鮮侵略による転換まで、新たな時代を形作った豊臣の平和を問い直す。

読売新聞 2025/04/20

2025:2./ 624p
978-4-8158-1181-5

¥8,800〔税込〕



美味しく楽しいフランス文学～文学から考えるフランスの飲食文化～

福田育弘 著

教育評論社

「バルザックの描く食事風景」など、19世紀フランス文学の料理や食事場面に着目し、料理史的な見方を中心に、当時のフランスの飲食文化の中に位置づける。フランス文学を美味しく楽しく読むための新しい扉。

読売新聞 2025/04/20

2025:3./ 295p
978-4-86624-111-1

¥2,420〔税込〕



殺劫～チベットの文化大革命～ 増補改訂版

ツェリン・オーセル 著

集広舎

毛沢東による、チベットにおけるプロレタリア文化大革命(1966～76)の暴風を、現在に伝える衝撃的な秘蔵写真と実証的な追跡取材。補記と新たな写真を加えたフォト・ルポルタージュの増補改訂版。

読売新聞 2025/04/20

2025:3./ 427p
978-4-86735-056-0

¥8,250〔税込〕



茨木のり子詩集(岩波文庫 緑 195-1)

茨木 のり子、谷川 俊太郎 著

岩波書店

スパッと歯切れのいい言葉が断言的に出てくる、主張のある詩、論理の詩。素直な表現で、人を励まし奮い立たせてくれる、「現代詩の長女」茨木のり子のエッセンス。大岡信との対談も収録。

読売新聞 2025/04/27

2014:3./ 398p
978-4-00-311951-8

¥880〔税込〕



物語の作り方～ガルシア=マルケスのシナリオ教室～(岩波現代文庫 文芸 367)

G.ガルシア=マルケス 著

岩波書店

おもしろい物語はどのようにして作るのか？ ガルシア=マルケスとプロのシナリオライターたちが、視聴者に訴えかけるストーリー作りの秘法を語り合う。稀代のストーリーテラーによる実践的「物語の作り方」道場。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 630p
978-4-00-602367-6

¥2,079〔税込〕





狂人日記(講談社文芸文庫)

色川 武大 著
講談社

狂気と正気の間を激しく揺れ動きつつ、自ら死を選ぶ男の凄絶なる魂の告白の書。現代人の彷徨う精神の行方を見据えた著者の、読売文学賞を受賞した最後の長篇小説。

2004:9./ 311p
978-4-06-198381-6

¥1,540〔税込〕



読売新聞 2025/04/27



野性のスポーツ哲学～「ネアンデルタール人」はこう考える～(集英社新書 1256)

室伏 重信 著
集英社

陸上競技ハンマー投げ選手として活躍し、今も指導する選手を通じて会心の一投を追究する著者が、自身の競技人生とスポーツ哲学を明かす。アテネ五輪ハンマー投げ金メダリストの長男・室伏広治との対談も収録。

2025:3./ 204p
978-4-08-721356-0

¥1,045〔税込〕



読売新聞 2025/04/27



ミーツ・ザ・ワールド(集英社文庫 か44-9)

金原 ひとみ 著
集英社

腐女子の由嘉里が人生二度目の合コン帰りに出会ったのは、「私はこの世から消えなきゃいけない」と語る美しいキャバ嬢・ライだった。推しへの愛と三次元の恋。幸せを求める気持ちが向かう先は...

2025:1./ 296p
978-4-08-744730-9

¥814〔税込〕



読売新聞 2025/04/27



街とその不確かな壁<上巻>(新潮文庫 む-5-46)

村上 春樹 著
新潮社

高い壁と望楼に囲まれた謎めいた街に“本当のきみ”がいるという。<古い夢>が並ぶ図書館、石造りの3つの橋、針のない時計台、角笛と金色の獣たち...。その街では人々は影を持たなくて...。2つの世界を往還する物語。

2025:5./ 457p
978-4-10-100178-4

¥990〔税込〕



読売新聞 2025/04/27



街とその不確かな壁<下巻>(新潮文庫 む-5-47)

村上 春樹 著
新潮社

ある日、イエロー・サブマリンの絵のヨットパーカーを着て、図書館のあらゆる本を読み尽くす少年があらわれる。彼は自ら描いた謎めいた“街”の地図を携え、影を棄てて壁の内側に入りたと言い...。2つの世界を往還する物語。

2025:5./ 416p
978-4-10-100179-1

¥935〔税込〕



読売新聞 2025/04/27



うらおもて人生録 改版(新潮文庫 い-21-2)

色川 武大 著
新潮社

優等生がひた走る本線のコースばかりが人生じゃない。いくたびか人生の裏街道に踏み迷い、勝負の修羅場もくぐり抜けてきた著者が、愚かしくて不格好な人間が生きていくうえでの魂の技術とセオリーを静かに語る。

読売新聞 2025/04/27

2014:7./ 404p
978-4-10-127002-9
¥825〔税込〕



ミミのこと～他二篇～(中公文庫 た 24-6)

田中小実昌 著
中央公論新社

パンパン狩りから逃げてきた耳の不自由な女性との純愛を描いた表題作はじめ、戦災孤児を集めて暮らす「浪曲師朝日丸の話」や「自動巻時計の一日」を収録。戦後の混乱期を生きる人々を、鋭くも温かい筆致で描く。

読売新聞 2025/04/27

2025:2./ 356p
978-4-12-207621-1
¥1,210〔税込〕



「失われた30年」に誰がした～日本経済の分岐点～

リチャード・カツツ 著
早川書房

日本でイノベーションが起きない根本原因は、起業の数が圧倒的に少ないことに求められる。ではなぜ、硬直化した大企業が幅を利かせ続けるのか? 知日派ジャーナリストが、日本経済復活の道を示す。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 484p
978-4-15-210416-8
¥3,960〔税込〕



怪しい来客簿(文春文庫)

色川 武大 著
文芸春秋

日常生活の狭間にかいま見る妖しの世界—独自の感性と性癖、幻想が醸し出す類いなき宇宙を清冽な文体で描きだした、泉鏡花賞受賞の世評高き連作短篇集。

読売新聞 2025/04/27

1989:10./ 310p
978-4-16-729604-9
¥660〔税込〕



離婚(文春文庫 い 9-7)

色川 武大 著
文芸春秋

「納得ずくで離婚したのに、なぜか女房のところに住み着いているのです」。男と女の世界を、ほろ苦いユーモアで描く、直木賞受賞作

読売新聞 2025/04/27

2011:11./ 236p
978-4-16-729608-7
¥660〔税込〕





ポロポロ(河出文庫)

田中 小実昌 著
河出書房新社

父の開いていた祈祷会では、みんなポロポロという言葉にならない祈りをさげんだり、つぶやいたりしていた—表題作「ポロポロ」の他、中国戦線での過酷な体験を描いた連作。谷崎潤一郎賞受賞作。

読売新聞 2025/04/27

2004:8./ 230p
978-4-309-40717-3
¥825 [税込]



カトマンズに飛ばされて〜旅嫌いな僕のアジア 10 カ国激闘日記〜

古舘 佑太郎 著
幻冬舎

人生初めての過呼吸、27時間の越境バス、ゴキブリまみれの夜行列車、潔癖症のガンジス川沐浴…。先輩からの命令でアジアに放り出された、人生に行き詰まったミュージシャンの絶望と再生の物語。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 324p
978-4-344-04415-9
¥1,980 [税込]



笑って人類!<上>(幻冬舎文庫 は-7-19)

太田光 著
幻冬舎

主要国リーダーが集結するマスターズ和平会議に遅刻したピースランド首相・富士見。そのおかげで惨劇を免れた彼は、会議を自国で再び開催したいと、フロンティア合衆国の暫定大統領・アンに想いを込めた手紙を送り…。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 492p
978-4-344-43458-5
¥957 [税込]



笑って人類!<下>(幻冬舎文庫 は-7-20)

太田光 著
幻冬舎

ダメダメ総理・富士見は武器ではなく、「言葉の力」で、どんな国のどんな立場の人間も置き去りにせず、世界を一つにしようとする。しかし、両親をテロで亡くしたアンには、ある秘密が…。又吉直樹との対談も収録。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 473p
978-4-344-43459-2
¥957 [税込]



私たちの戦争社会学入門(未来のわたしにタネをまこう 08)

野上元 著
大和書房

戦争は、逃れられない人間の本质であり、それを見据えて社会が成り立っている。戦争は社会認識の有効な手段であり、社会を知るためには戦争について知らなければいけない。歴史と社会の解像度が劇的に上がる戦争講座。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 295p
978-4-479-39447-1
¥1,980 [税込]





密室殺人ありがとう〜ミステリ短篇傑作選〜(ちくま文庫 た41-9)

日下 三蔵 編
田中 小実昌 著
筑摩書房

作家、翻訳家、エッセイスト、俳優など、多岐にわたって活躍した田中小実昌の1970〜80年代初頭の未書籍化ミステリ短篇集。「バカな殺されかた」「耳穴カミソリ」など、全12編を日下三蔵の詳細な解説とともに収録する。

読売新聞 2025/04/27

2021:9./ 396p
978-4-480-43768-6

¥924〔税込〕



9 78 44 80 43 76 86



厨房から見たロシア〜包丁と鍋とおたまで帝国を築く方法〜

ヴィトルト・シャブウォフスキ 著
白水社

皇帝一家と運命を共にした料理人から、レーニンの料理人、サナトリウムの料理人だったプーチン大統領の祖父まで。旧ソ連諸国を縦横に巡り、「食」の観点からロシアを多面的に読み解く。各章に料理レシピも収録。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 432p
978-4-560-09136-4

¥4,180〔税込〕



9 78 45 60 09 13 64



競争なきアメリカ〜自由市場を再起動する経済学〜

トマ・フィリボン 著
みすず書房

自由市場の国アメリカでは、一握りの企業への集中が高まったことで、様々な物・サービスの市場で価格が上昇している。なぜ競争の欠如が賃金・投資の減少、生産性・成長の低下、格差の拡大をもたらすのかを示す。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 416p
978-4-622-09754-9

¥4,950〔税込〕



9 78 46 22 09 75 49



中国の産業政策〜主導権獲得への模索〜

丸川 知雄 著
名古屋大学出版会

米中対立の一大焦点と化した中国の産業政策。国際競争力や技術力に与えた真の効果をめぐり、中央・地方の開発戦略や企業データを徹底分析。鉄鋼から半導体・EVまで重要産業を網羅し、その全貌と限界を描く。

読売新聞 2025/04/27

2025:2./ 416p
978-4-8158-1187-7

¥5,940〔税込〕



9 78 48 15 81 18 77



そして奇妙な読書だけが残った

大槻ケンヂ 著
本の雑誌社

僕だけが憶えている本、コロナ禍でのライブと猪木の言葉、目羅博士的跳躍に書店怪談…。本とオカルトを愛するオーケンの奇妙な読書エッセイ。インタビューや単行本未収録エッセイも掲載。『本の雑誌』ほか掲載を書籍化。

読売新聞 2025/04/27

2025:2./ 269p
978-4-86011-499-2

¥1,870〔税込〕



9 78 48 60 11 49 92



国境アトラス～世界の壁・移民・紛争の全記録～

デルフィヌ・バパン／ブルーノ・テルトレ／グゼマルタン・ラポルド 著
日経ナショナルジオグラフィック社

紛争によってせめぎ合う国境、気候変動によって地形が変わる国、資源の争奪に揺れる北極海の境界線…。美しく精細な地図とともに、地政学と国際安全保障問題のスペシャリストが、世界の成り立ちと紛争、未来を語る。

読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 199p
978-4-86313-642-7

¥3,630〔税込〕



職業としての学問(岩波文庫 白 209-5)

マックス・ウェーバー 著
岩波書店

青年たちは事実のかわりに世界観を、認識のかわりに体験を、教師のかわりに指導者を欲した。学問と政策の峻別を説くこの名高い講演で、ウェーバーはこうした風潮を鍛えらるべき弱さだと批判し、「日々の仕事に帰れ」と彼らを叱咤する。

日本経済新聞 2025/04/05

1980:11./ 92p
978-4-00-342095-9

¥550〔税込〕



職業としての政治(岩波文庫 白 209-7)

マックス・ヴェーバー 著
岩波書店

マックス・ヴェーバーがドイツ敗戦直後、自らが没する前年に行った講演の記録。政治という営みの本質、政治家がそなえるべき資質や倫理について情熱を傾けて語る。

日本経済新聞 2025/04/05

2020:9./ 170p
978-4-00-390003-1

¥770〔税込〕



ヒトとヒグマ～狩猟からクマ送り儀礼まで～(岩波新書 新赤版 2059)

増田 隆一 著
岩波書店

北半球に広く分布し、生態系の頂点に立ち、「山の神」と崇められてきた野生動物ヒグマ。ヒトとヒグマが辿った進化上の運命的な出会いの謎に迫り、クマ送り儀礼に見る、人間と自然との豊饒な文化の意味と可能性を問う。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:3./ 220p
978-4-00-432059-3

¥1,012〔税込〕



格差の“格”ってなんですか?～無自覚な能力主義と特権性～

勅使川原真衣 著
朝日新聞出版

何かを「分けて」「わかった」気になり、「分け合い」をもっともらしく決めているが、何を「分け」「分け」られているのだろうか。「よりよい生き方」を疑い「わかる」に挑む。『Re:Ron』連載を加筆・修正し書籍化。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:1./ 237p
978-4-02-332386-5

¥1,760〔税込〕





倭寇とは何か〜中華を揺さぶる「海賊」の正体〜(新潮選書)

岡本 隆司 著
新潮社

秀吉の海賊禁止令以降も「倭寇」は存在していた、「倭寇」も「アヘン戦争」も「中国革命」も根は同じ…。グローバルな視座から東アジアの長期的な構造を捉え直し、「海賊」が中華の秩序を揺さぶり続けている状況を解き明かす。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:2./ 217p
978-4-10-603922-5

¥1,760〔税込〕



9 784106039225

反古典の政治経済学<上> 進歩史観の黄昏

村上 泰亮 著
中央公論新社

日本経済新聞 2025/04/05

2000:4./ 364p



9 784120021367

反古典の政治経済学<下> 二十一世紀への序説

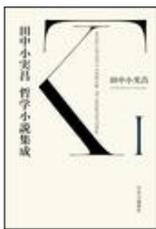
村上 泰亮 著
中央公論新社

日本経済新聞 2025/04/05

2000:4./ 556p



9 784120021374



田中小実昌哲学小説集成<1>

田中小実昌 著
中央公論新社

田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。1は、「カント節」「モナドは窓がない」を収録する。巻末に柄谷行人、平岡篤頼、井上忠との対談も掲載。

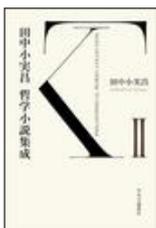
日本経済新聞 2025/04/05

2025:1./ 377p
978-4-12-005879-0

¥3,960〔税込〕



9 784120058790



田中小実昌哲学小説集成<2>

田中小実昌 著
中央公論新社

田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。2は、「なやまない」「ないものの存在」を収録する。巻末に池内紀+堀江敏幸、保坂和志+石川忠司の対談も掲載。

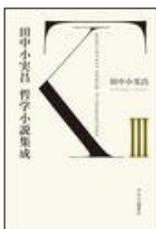
日本経済新聞 2025/04/05

2025:1./ 376p
978-4-12-005880-6

¥3,960〔税込〕



9 784120058806



田中小実昌哲学小説集成<3>

田中小実昌 著
中央公論新社

田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。3は、1982～97年発表の単行本未収録短篇全14篇をまとめる。佐々木敦による解説も掲載。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:3./ 392p
978-4-12-005903-2

¥4,180〔税込〕



9 784120059032



世界の教育はどこへ向かうか～能力・探究・ウェルビーイング～(中公新書 2844)

白井俊 著
中央公論新社

新たな時代に求められる能力や主体性、ウェルビーイングとは何か。各国が直面する教師不足や過重なカリキュラムへの対応策は。国連や OECD、ユネスコなどの国際機関、各国での議論を踏まえ、これからの教育を考察する。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:2./ 240p
978-4-12-102844-0

¥990〔税込〕



9 784121 028440



世界の終わりの最後の殺人

スチュアート・タートン 著
文藝春秋

世界は謎の「霧」によって滅亡し、人類が生き残るのはバリアに囲まれた孤島ひとつのみ。3人の科学者と AI の管理のもと、100人超の村民が自給自足の生活を送る。ある日科学者の1人が殺され、バリアが解除されてしまい…。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:3./ 423p
978-4-16-391958-4

¥3,190〔税込〕



9 784163 919584

音楽の歴史と思想

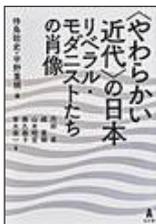
フーゴー・ライヒテントリット 著
音楽之友社
日本経済新聞 2025/04/05

1978:1./ 356p
978-4-276-11301-5

¥4,485〔税込〕



9 784276 113015



<やわらかい近代>の日本～リベラル・モダニストたちの肖像～

待鳥 聡史、宇野 重規 編
弘文堂

保守主義でもなく、マルクス主義でもない。自由民主主義体制内からの積極的な近代化の推進を特徴とする立場「リベラル・モダニズム」を、戦後日本の政治・経済・社会の文脈に位置づける。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:1./ 296p
978-4-335-46046-3

¥3,080〔税込〕



9 784335 460463



海洋の環～人類の共同財産「海洋」のガバナンス～

エリザベス・マン・ボルゲーゼ 著
成山堂書店

海洋を人類の共同財産として治めるにはどうしたらよいか。「海洋の母」と呼ばれる著者が、高い理念と豊富な知見を活かして、自然科学的、文化的、経済的、法的、制度的な視点から具体的に考察し、そのあるべき姿を提示する。

日本経済新聞 2025/04/05

2018:1./ 245p
978-4-425-53181-3

¥2,860〔税込〕



9 784425 531813



暴走する世界～グローバリゼーションは何をどう変えるのか～

アンソニー・ギデンズ、佐和 隆光 著
ダイヤモンド社

秩序と安定を失いながら「変化」し続ける世界。このとめどなき「変化」の本質を、グローバリゼーション、リスク、伝統、家族、民主主義という5つのキーワードで読み解く論考。

日本経済新聞 2025/04/05

2001:10./ 213p



ゆたかさをどう測るか～ウェルビーイングの経済学～(ちくま新書 1842)

山田 鋭夫 著
筑摩書房

経済のための人間から、人間のための経済へ。GDPでは数値化できない、人間の「ゆたかな生(ウェルビーイング)」とは何か。国家や市場という枠組みに囚われず、独立した個の連帯からなる社会のかたちを構想する。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:2./ 222p

978-4-480-07670-0

¥968 [税込]



駅と旅(創元文芸文庫 LA ん 1-4)

砂村 かいり／朝倉 宏景／君嶋 彼方／松崎 有理／額賀 滯／鳥山 まこと 著
東京創元社

浜松、西宮、札幌、唐津、明洞、ポルト…。6つの都市へ向かう列車で、あるいは辿り着いた先で、どんな景色が待っているのか。6人の作家が旅の非日常へと誘うアンソロジー。『紙魚の手帖』掲載に書き下ろしを加えて文庫化。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:3./ 323p

978-4-488-80315-5

¥858 [税込]



不平等・所得格差の経済学～ケネー、アダム・スミスからピケティまで～

ブランコ・ミラノヴィッチ 著
明石書店

不平等研究の第一人者が、経済学の歴史を俯瞰し、ケネー、アダム・スミス、マルクスから、21世紀のピケティまで、所得不平等に関する代表的な理論を概括。今後の格差是正について探る。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:2./ 392p

978-4-7503-5874-1

¥4,950 [税込]



月とゲッター～科学技術と公共政策～

リチャード・R.ネルソン 著
慶應義塾大学出版会

われわれは月に人を送り込むことができたのに、なぜ都市の貧困の問題を解決できないでいるのか？ 技術革新研究の第一人者が、現実を直視しながら公共政策のあり方を論じ、科学技術と社会科学の協働を探る。

日本経済新聞 2025/04/05

2012:12./ 204p

978-4-7664-2001-2

¥2,750 [税込]





古本屋の誕生～東京古書店史～

鹿島 茂 著
草思社

「知と文化の集積地」はいかにして作られてきたか？江戸時代の「書店」の誕生から、明治以降の東京古書界の変遷、戦後の復興と発展まで、本の街の歴史を詳細にたどる。

日本経済新聞 2025/04/05

2025:2./ 286p
978-4-7942-2766-9

¥2,420〔税込〕



新篇葉隠(タチバナ教養文庫)

山本 常朝、田代 陣基、神子 侃 著
T T J たちばな出版

日本経済新聞 2025/04/05

2003:5./ 372p
978-4-8133-1699-2

¥1,430〔税込〕



エルマーのぼうけん 新版(世界傑作童話シリーズ)

ルース・スタイルス・ガネット 著
福音館書店

動物島に捕えられているりゅうの子を助けるため、エルマーは冒険の旅にでかけます……。広がる空想、ユーモア、リアリティー。幼年童話の最高峰の一つとして読みつがれています。

日本経済新聞 2025/04/05

2010:3./ 116p
978-4-8340-0013-9

¥1,320〔税込〕



東京大空襲を指揮した男カーティス・ルメイ(ハヤカワ新書 039)

上岡 伸雄 著
早川書房

第二次大戦中、日本への無差別爆撃を指揮するも、戦後、航空自衛隊の育成に貢献。ベトナム戦争時に「石器時代に戻せ」と北爆を進め…。米文学研究の泰斗がルメイに関する英語文献を丹念に調査し、その実像を客観的に明かす。

日本経済新聞 2025/04/05、朝日新聞 2025/04/26

2025:2./ 284p
978-4-15-340039-9

¥1,364〔税込〕



養生する言葉

岩川 ありさ 著
講談社

大江健三郎、ハン・ガン、津村記久子、文月悠光、「ブルーロック」「君と宇宙を歩くために」…。文学研究者が出会った、人生に寄り添ってくれる「言葉」と「物語」。『群像』連載に加筆修正。

日本経済新聞 2025/04/05、東京・中日新聞 2025/04/27

2025:2./ 250p
978-4-06-538445-9

¥1,760〔税込〕





虚言の国〜アメリカ・ファンタスティカ〜

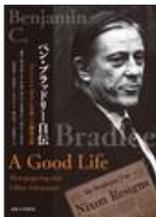
ティム・オブライエン 著
ハーバーコリンズ・ジャパン

ある理由で一流ジャーナリストからフェイクニュースの王に転落した中年男ボイド。カリフォルニアの田舎町でデパートの店長をしている彼は地元銀行の窓口係アンジーに銃を突きつけ、奪った金と彼女を連れ逃避行に出るが...

日本経済新聞 2025/04/05、読売新聞 2025/04/13、毎日新聞 2025/04/26

2025:2./ 620p
978-4-596-72564-6

¥3,630〔税込〕



ベン・ブラッドリー自伝〜『ワシントン・ポスト』を率いた編集主幹〜

ベン・ブラッドリー 著
法政大学出版局

ホワイトハウスの嘘を暴きニクソン大統領らを辞任させたウォーターゲート事件を始め、1970年代の米国史を変えた『ワシントン・ポスト』の編集主幹ベン・ブラッドリーの自伝。20世紀アメリカジャーナリズムの真髄を示す。

日本経済新聞 2025/04/05、毎日新聞 2025/04/19

2025:2./ 556p
978-4-588-61601-3

¥4,950〔税込〕



同性婚法制化のためのQ&A(岩波ブックレット No.1088)

「結婚の自由をすべての人に」訴訟全国弁護団連絡会 著
岩波書店

同性婚を認めると、家族のあり方は変わってしまうのか？同性婚の法制化をめぐる様々な問いについて、「結婚の自由をすべての人に」訴訟全国弁護団連絡会の弁護士たちが、世界の趨勢や世論の動きを踏まえて基本から解説する。

日本経済新聞 2025/04/12

2024:2./ 63p
978-4-00-271088-4

¥627〔税込〕



ファーストキス

坂元 裕二 著
KADOKAWA

結婚して15年目、不仲だった夫が事故で死んだ。残された妻がタイムトラベルで過去に戻ると、彼女と出会う直前の夫の姿があった。夫に再会した彼女は、もう一度彼と恋に落ちて...。2025年2月公開映画のシナリオブック。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:1./ 222p 図版 16p
978-4-04-897856-9

¥1,870〔税込〕



科学的思考入門(講談社現代新書 2765)

植原 亮 著
講談社

有害な情報から身を守り、無意識のバイアスを避けるには。情報過剰社会を生きるうえで必須の「免疫」-日常・仕事で威力を発揮する「科学的思考」を、豊富な例や問題でわかりやすく解説する。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 326p
978-4-06-538771-9

¥1,210〔税込〕





カット・イン/カット・アウト

松井 玲奈 著
集英社

著名な劇作家が主宰する劇団の新作公演初日まで、残り3週間。ヒロインに選ばれたアイドル・中野ももは、役作りに難渋していた。そんな彼女の様子を、売れない中年女優は気に掛けるが…。『小説すばる』掲載を加筆修正。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:3./ 252p
978-4-08-771891-1

¥1,870〔税込〕



わたしは真悟〜棋図 Perfection! 11〜<1>(Big comics special)

棋図 かずお 著
小学館

21世紀への警鐘!棋図かずおの最高傑作、完全版雑誌連載時カラー80ページ、単行本収録時追加カラー156ページの全てを完全収録!!

日本経済新聞 2025/04/12

2009:12./ 271p
978-4-09-182865-1

¥1,571〔税込〕



リキッド消費とは何か(新潮新書 1076)

久保田 進彦 著
新潮社

SNSで見た服をスマホで即ポチ、映画はサブスク、車はカーシェア…。次々とモノと情報が流れる時代、消費スタイルは歴史的な変化を迎えている。移り替わる消費行動「リキッド消費」の謎を解く。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 220p
978-4-10-611076-4

¥990〔税込〕



外交とは何か〜不戦不敗の要諦〜(中公新書 2848)

小原 雅博 著
中央公論新社

戦争をせず平和的に問題を解決するための要諦とは。陸奥宗光、吉田茂、チャーチル、キッシンジャーらの歩みと、地政学、戦略論などの理論から、軍事と外交の教訓を導く。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:3./ 368p
978-4-12-102848-8

¥1,210〔税込〕



仏教を「経営」する〜実験寺院のフィールドワーク〜(NHKブックス 1293)

藏本 龍介 著
NHK出版

ミャンマーで出家した著者は、布施のみで生きる出家者のあり方に仏教の可能性を確信し、帰国後京都で新寺院を立ち上げて現代日本に即した仏教のあり方を追求しはじめたが…。宗教の本質と現代的可能性に迫るノンフィクション。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 283p
978-4-14-091293-5

¥1,760〔税込〕





失敗できる組織

エイミー・C・エドモンドソン 著

早川書房

マイクロソフト、Google…。なぜ生産性の高い組織ほど、「失敗」を必要とするのか。「心理的安全性」研究の第一人者が、失敗を類型化し、失敗を通じて生産性を向上させるためのフレームワークを提言する。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 376p
978-4-15-210409-0

¥2,750〔税込〕



人生劇場

桜木紫乃 著

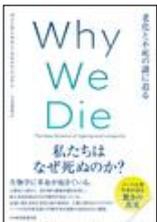
徳間書店

劣等感を抱える猛夫は、いつか皆を見返してやりたいと思うように。理容師として独立、ラブホテル経営と、届かぬ夢だけを追い続けた男の行く末は。北の大地で生きる家族の光と闇を描く。『アサヒ芸能』連載を大幅に加筆修正。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:3./ 460p
978-4-19-865973-8

¥2,310〔税込〕



Why We Die～老化と不死の謎に迫る～

ヴェンカトラマン・ラマクリシュナン 著

日経BP社

なぜ老いるのか。充実した健康長寿のために、何をすればよいか。急速に進む寿命と老化と病の研究は、人類に何をもたらすのか。分子生物学者が最新の科学的知見をもとに寿命と老化を解説する。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:1./ 398p
978-4-296-11359-0

¥2,420〔税込〕



グローバル時代の景観デザイン～ポストコロナ、再生可能エネルギー、自然災害へのレジリエンス～

日本建築学会 編

阿部大輔／阿部貴弘／大窪健之／志村秀明／栗山尚子／益尾孝祐／沼田麻美子／秋田典子／阿久井康平／高取千佳／竹中克行／原田栄二／樋渡 彩／星野裕司／益子智之／松井大輔／宮脇 勝／村上 迅／森 朋子／大野 整／尾野 薫／金 度源／佐藤宏亮／渡部 健 著

鹿島出版会

元来ローカルなものである景観に、グローバルな情勢が多大な影響を及ぼすようになった「グローバル」時代。ローカルに立脚しつつ、幅広く長期的視野をもって豊かな景観デザインを考える。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:1./ 251p
978-4-306-07371-5

¥3,300〔税込〕





MIU404 シナリオブック

野木 亜紀子 著
河出書房新社

綾野剛&星野源 W 主演の TBS 系金曜ドラマ「MIU404」のシナリオ全 11 話を収録。
音楽担当×脚本家対談、脚本家×演出×プロデューサー鼎談、脚本家・野木亜紀子によるあとがきも掲載。

日本経済新聞 2025/04/12

2020:12./ 453p
978-4-309-02933-7

¥2,200〔税込〕



アンナチュラル

野木 亜紀子 著
河出書房新社

日々発生する「不自然な死」の裏側に隠された謎や事件に立ち向かう、不自然死究明研究所・通称 UDI ラボの面々の奮闘を描く。人気 TBS 系金曜ドラマ(2018 年放送)の完全版シナリオブック。著者のあとがきや豆知識付き。

日本経済新聞 2025/04/12

2024:8./ 407p
978-4-309-03201-6

¥2,475〔税込〕



「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話。(ちくま文庫お 78-1)

小川 たまか 著
筑摩書房

2016 年 2 月から 2018 年 5 月に起きた、性犯罪やそれにまつわる世論、性犯罪刑法改正、ジェンダー炎上案件などを取り上げ、発信してきた記録。『母の友』連載を抜粋した新章「自由のほうへ行くために」を増補。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:3./ 254p
978-4-480-43994-9

¥924〔税込〕



台湾同性婚法の誕生～アジア LGBTQ+ 燈台への歷程～

鈴木 賢 著
日本評論社

台湾の婚姻平等は、総統や国会議員の選挙、司法判断、国民投票のすべての手続を使い切って実現した。同性婚を認める法律が成立するまでの LGBT 運動、政治過程、法の内容を分析、法施行後の台湾社会の変化と課題を考察する。

日本経済新聞 2025/04/12

2022:3./ 402p
978-4-535-52633-4

¥4,070〔税込〕



同性愛と同性婚の政治学～ノーマルの虚像～

アンドリュー・サリヴァン、本山 哲人、脇田 玲子、板津 木綿子、加藤 健太 著

明石書店

同性カップルに結婚の権利が認められていないのは正当か？ 米国を代表する政治評論家が同性愛者の社会的位置づけを論じ、米国において同性婚法制化を推し進めることとなった画期的な書の邦訳。

日本経済新聞 2025/04/12

2015:6./ 302p
978-4-7503-4206-1

¥3,300〔税込〕





生き続ける震災遺構～三陸の人びとの生活史より～

坂口 奈央 著

ナカニシヤ出版

東日本大震災の被害の大きさを伝える震災遺構に、三陸に生きる人びとはどのような意味を見いだしていったのか。東日本大震災から10年以上にわたる観察と生活史調査をもとに、その動的プロセスについて論じる。

日本経済新聞 2025/04/12

2025:2./ 284p
978-4-7795-1850-8

¥3,960〔税込〕



ブラジルの同性婚法～判例による法生成と家族概念の転換～(学術選書 175)

マシャド・ダニエル 著

信山社出版

情愛と家族関係の非打算性と新しい家族像とは？ ブラジルにおける同性カップルの法的承認からみた最新テーマを分析し、ブラジル家族法と日本法に共通する、現代家族法の展開を探る。

日本経済新聞 2025/04/12

2018:5./ 312p
978-4-7972-6775-4

¥7,480〔税込〕



動物には何が見え、聞こえ、感じられるのか～人間には感知できない驚異の環世界～

エド ヨン 著

柏書房

動物たちの感覚とは一体どのようなものか。人間より優れているのか。五感を動物ごとと人間と比べてその違いを解明。電気や磁気といった人間には全く感じられない感覚についても解説する。

日本経済新聞 2025/04/12、読売新聞 2025/04/20

2025:2./ 610p 図版 32p
978-4-7601-5601-6

¥3,850〔税込〕



藤田まこと修芸生涯

原田 敬子 著

リットーミュージック

多数の当たり役で知られ、50年近く主役を務めた名優、藤田まこと。家庭、仕事場、借金、晩年の闘病生活など、長女であり付き人も務めた原田敬子が、その素顔を明かす。共演者によるコメントも多数掲載。

日本経済新聞 2025/04/12、読売新聞 2025/04/27

2025:2./ 255p
978-4-8456-4239-7

¥2,200〔税込〕



持続可能なメディア(朝日新書 993)

下山進 著

朝日新聞出版

巨大な技術革新の波に揉まれ、崩壊の螺旋階段を落ちていく新聞・テレビ。彼らを尻目に繁栄するメディアとは。国内外を取材し、エピソード豊かに成功の原則を描き出す。『サンデー毎日』『AERA』ほか掲載をもとに新書化。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 313p
978-4-02-295306-3

¥1,045〔税込〕





経営教育～人生を変える経営学の道具立て～(角川新書 K-479)

岩尾 俊兵 著
KADOKAWA

「みんな苦しい」には単純な原因があり、対処する方法がある。仕事、人生、社会で即実践可能な「経営学の道具立て」である価値創造三種の神器を解説し、これらを使いこなすことによる実際的なメリットを論じる。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 239p
978-4-04-082481-9

¥990〔税込〕



おいしい季節がやってくる。(集英社文庫 ゆ 10-7)

行成 薫 著
集英社

海の家でひと夏アルバイトをすることになった大学生の海夏人。灼熱の太陽のもと、ひたすら焼きそばを作る機械と化すが…。「夏の鉄板前は地獄」など、巡りくる季節と人と命をつなぐ、美味しいごはんの物語を収録。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 322p
978-4-08-744750-7

¥825〔税込〕



ブラック郵便局

宮崎 拓朗 著
新潮社

市民のために働いてきた郵便局員たちとその家族が、疲弊しきっている。異常すぎるノルマ、手段を選ばない勧誘、そして政治との癒着…。関係者 1000 人以上の「叫び」を基に歪んだ巨大組織の実態にせまるノンフィクション。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:2./ 238p
978-4-10-356151-4

¥1,760〔税込〕



文と本と旅と～上林暁精選随筆集～(中公文庫 か 95-1)

山本 善行 編
上林 暁 著
中央公論新社

昔は僕も新刊書の匂いが好きであったが、この頃は古本の匂いがずっと好きになった。文章、本、旅、酒、そして人。私小説作家・上林暁の魅力が伝わる題材に寄せて、全生涯にわたる名文を精選した随筆集。

日本経済新聞 2025/04/19

2022:7./ 352p
978-4-12-207228-2

¥1,100〔税込〕



命の家～上林暁病妻小説集～(中公文庫 か 95-2)

山本善行 編
上林暁 著
中央公論新社

心を病み、「錠前と鉄格子」のある病院で、孤独に生きる妻。発病から死に至るまで、病魔に蝕まれてゆく妻と苦悩する自身をモデルに紡がれた魂の文学。「病妻物」から 12 篇を精選した、孤高の私小説集。文庫オリジナル。

日本経済新聞 2025/04/19

2023:10./ 380p
978-4-12-207429-3

¥1,320〔税込〕



「昭和」という国家(NHK ブックス)

司馬 遼太郎 著

N H K 出版

司馬遼太郎はいったい昭和をどう見たのか。軍部官僚の「総帥権」という正義の体系が充満して国家や社会をふりまわしていた昭和という魔法の森の時代を、骨身に軋むような想いで解剖する。1998年刊の再刊。〈ソフトカバー〉

日本経済新聞 2025/04/19

1999:3./ 315p
978-4-14-001856-9

¥1,276〔税込〕



9 7 8 4 1 4 0 0 1 8 5 6 9



「明治」という国家(NHK ブックス 1249)

司馬 遼太郎 著

N H K 出版

司馬遼太郎唯一の本格的明治国家論。歴史小説で日本人の明治観の基礎をつくった国民作家が、「格調の高い精神で支えられたリアリズムの時代」を巨細に語り、日本人のアイデンティティを剔出する。

日本経済新聞 2025/04/19

2018:1./ 341p
978-4-14-091249-2

¥1,760〔税込〕



9 7 8 4 1 4 0 9 1 2 4 9 2



竜馬がゆく<1>(文春文庫)

司馬 遼太郎 著

文芸春秋

青春小説の名作が読みやすくなって再登場。前半は、奥手だった幼年期から、剣術修行、脱藩、勝海舟との出会いと海軍塾設立までを描く

日本経済新聞 2025/04/19

1998:9./ 446p
978-4-16-710567-9

¥869〔税込〕



9 7 8 4 1 6 7 1 0 5 6 7 9



サルとジェンダー～動物から考える人間の<性差>～

フランス・ドゥ・ヴァール 著

紀伊國屋書店出版部

ジェンダーがあるのは人間だけか？ 男と女の行動の違いは自然のものか、人為的なものか？ 霊長類の社会的知能研究の第一人者が、性をめぐる論争に切り込む。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 493p
978-4-314-01213-3

¥3,520〔税込〕



9 7 8 4 3 1 4 0 1 2 1 3 3



関係人口～都市と地方を同時並行で生きる～(光文社新書 1350)

高橋博之 著

光文社

地方だけでなく都市も限界を迎えている日本にとって、「関係人口=地域外に拠点を置きながら地域と継続的に関わる人々」は救いの哲学となるのか？ 深い洞察と情熱をつめこんだ、新時代の地方創生論。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 292p
978-4-334-10585-3

¥1,100〔税込〕



9 7 8 4 3 3 4 1 0 5 8 5 3

経営の行動指針～土光語録～ 新訂

土光敏夫、本郷孝信 著
産業能率大学出版部

40 万部(昭和 45 年刊)突破の超ロングセラーで不朽の名著の改訂新版。著者の側近くにあった編者が、秘蔵されていた新語録の公開と、語録解説の改訂を実施。混迷の現代に血肉となる名言の数々。

日本経済新聞 2025/04/19

1996:3./ 201p
978-4-382-05337-3

¥1,760〔税込〕



舞台が幕を開けるまで～演劇のつくり方、教えます～(まなびの地図)

おーちようこ 著
大修館書店

きらびやかな舞台上の輝きはどうやって生まれるのか? 公演の企画、脚本・演出の決定、宣伝・チケット販売、稽古開始、小屋入りから初日…。第一線で活躍中の演劇人たちが、演劇のつくり方を熱く語る。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 192p
978-4-469-29119-3

¥2,200〔税込〕



医者が教えるサウナの教科書～ビジネスエリートはなぜ脳と体をサウナでとのえるのか?～

加藤 容崇 著
ダイヤモンド社

サウナで最強効果を出すための正しい入り方を、医学的見地をもとに解説。サウナの科学、目的別の入り方、日常生活へのサウナの取り入れ方、サウナドクターへの Q&A も収録。全国おすすめサウナも収録。

日本経済新聞 2025/04/19

2020:3./ 223p
978-4-478-11031-7

¥1,540〔税込〕



考え方～人生・仕事の結果が変わる～

稲盛 和夫 著
大和書房

自己成長を促し、真の充足をもたらす唯一の確実な方法とは。「大きな志を持つこと」「常に前向きであること」…。当代随一の経営者・稲盛和夫が、素晴らしい人生を送るために必要な「考え方」を語る。

日本経済新聞 2025/04/19

2017:3./ 255p
978-4-479-79573-5

¥1,870〔税込〕



小さな町・日日の麴麴(ちくま文庫 43-2)

小山 清 著
筑摩書房

新聞配達員として暮らす下谷龍泉寺町、炭坑員として働いた夕張の町。そこで生きる人々との交わりや彼らのささやかな人生を描いた「小さな町」をはじめ、不遇にうめきつつも文学を信じ、書きつづけた作家の代表的作品集。

日本経済新聞 2025/04/19

2023:12./ 456p
978-4-480-43917-8

¥1,100〔税込〕





駄目も目である～木山捷平小説集～(ちくま文庫 き 43-1)

木山 捷平／岡崎 武志 著
筑摩書房

飄逸でユーモアに溢れる世界は唯一無二。木山捷平の作品をこよなく愛する岡崎武志が、木山自身を投影した“正介”が登場し、東京の街を闊歩する作品を中心に編んだ作品集。「軽石」「苦いお茶」など全 15 編を収録する。

日本経済新聞 2025/04/19

2024:10./ 382p
978-4-480-43987-1

¥1,100〔税込〕



暴走するウクライナ戦争～クレムリン中枢と戦場で何が起きたのか～

オーウェン・マシューズ 著
白水社

なぜプーチンはウクライナ戦争を始めたのか。暴力的に「大ロシア」を作り上げるといふ構想はどのようにしてロシア政治の周縁部からクレムリンの公式政策となったのか。歴史的経緯から外交の舞台裏まで、深層を掘り起こす。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 470p
978-4-560-09156-2

¥4,950〔税込〕



道をひらく

松下幸之助 著
P H P 研究所

これまで、どれほど多くの人が本書に勇気づけられ、また成功への指針としてきたことか。この本には、時代を超えて生き続ける不変の真理があるからである。

日本経済新聞 2025/04/19

1968:1./ 271p
978-4-569-53407-7

¥1,210〔税込〕



心を高める経営を伸ばす

稲盛 和夫 著
P H P 研究所

日本経済新聞 2025/04/19

1991:10./ 251p



商売心得帖(PHP 文庫)

松下 幸之助 著
P H P 研究所

商売は朝に発意、昼に実行、夕べに反省の繰り返し。事業一筋半世紀、その豊富な体験と深い思索から説く商売のコツとは。ビジネスの基本と本質が詰まった一冊。

日本経済新聞 2025/04/19

2001:5./ 204p
978-4-569-57557-5

¥523〔税込〕





経営心得帖(PHP文庫)

松下 幸之助 著

PHP研究所

金融機関や隆盛を誇った企業の破綻が珍しいことでなくなった現在、破綻を回避できた例もあったに違いない。幾多の困難を乗り越えてきた松下の経営観に、この厳しい環境を克服するヒントを見出すことができるのではないだろうか。

日本経済新聞 2025/04/19

2001:5./ 208p
978-4-569-57558-2

¥523〔税込〕



人を活かす経営(PHPビジネス新書 M07)

松下 幸之助 著

PHP研究所

経営、商売を左右するものは「人」である。松下幸之助が、「人」についての問題を、いろいろな面から取り上げ、具体的な事例とともに考える。「人」の持ち味を引き出し、仕事を成功に導くためのヒントが満載。

日本経済新聞 2025/04/19

2014:10./ 239p



おれに聞くの?~異端文学者による人生相談~

山下 澄人 著

平凡社

モチベーションを保つには。人が読みたくなる文章とは。他者と共に生きるとは…。芥川賞作家・山下澄人が、生き方、書くこと、人間関係にまつわる悩みに答える。

Mond 掲載に加筆修正し書籍化。

日本経済新聞 2025/04/19

2023:5./ 190p
978-4-582-83925-8

¥1,980〔税込〕



もう、きみには頼まない~石坂泰三の世界~

城山 三郎 著

毎日新聞出版

日本経済新聞 2025/04/19

1995:1./ 309p
978-4-620-10516-1

¥1,601〔税込〕



生き方~人間として一番大切なこと~

稲盛 和夫 著

サンマーク出版

人間として正しい生き方を志し、ひたすら貫きつづける。それが、いま私たちにもっとも求められている。混迷の時代に打ち込む、「生き方」という一本の杭。京セラとKDDIを創業した著者が語りつくす、人生哲学の集大成。

日本経済新聞 2025/04/19

2004:7./ 246p
978-4-7631-9543-2

¥1,870〔税込〕





奴隷・骨・ブロンズ～脱植民地化の歴史学～

井野瀬 久美恵 著
世界思想社

BLM 運動が糾弾する奴隷制の歴史、欧米の博物館を揺るがすベニン・ブロンズ…。イギリス近代史を専門とする著者が、「知の脱植民地化」について考察する。世界思想社 WEB マガジン連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 272p
978-4-7907-1797-3

¥2,970 [税込]



瘦我慢の説(torch comics)

川勝 徳重／藤枝 静男 著
リード社

がんこな中年男と天真爛漫なアプレ娘、世代を超えた交歓を描く感動作!手をふつて、いい気分で、進まねばならぬ。苦しんで生き生きと暮らすのだ!!

日本経済新聞 2025/04/19

2024:9./ 276p
978-4-8458-6632-8

¥1,430 [税込]



越境する歌舞伎～戦前・戦後の小芝居と女役者～

浅野 久枝 著
春風社

大歌舞伎に比して小規模な歌舞伎興行を行う小芝居。松竹による大歌舞伎界との交流はもとより、時間・ジェンダー・国境と、あらゆる枠を越えながら、昭和後期まで活動していたその実態を追う。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:2./ 484p
978-4-86816-012-0

¥5,500 [税込]



不平等のコスト～ラテンアメリカから世界への教訓と警告～

ディエゴ・サンチェス・アンコチェア／谷洋之 著
東京外国語大学出版会

不平等がもたらす経済的・政治的・社会的悪循環から、私たちは抜け出すことができるのか? 長くこの悪循環を経験してきたラテンアメリカの豊富な事例研究から要因を解明し、何をすべきかを提言する。

日本経済新聞 2025/04/19

2025:3./ 349p
978-4-910635-14-9

¥3,300 [税込]



彼女を見守る

ジャン＝バティスト・アンドレア 著
早川書房

親元を離れ、石工の見習いになった少年ミモは、この地を治める公爵の令嬢で同じ生年月日のヴィオラに出会う。ミモが彫刻の才を発揮する一方、科学を愛し、空を飛ぶことを夢見る少女だったヴィオラは時代の制約に絡め取られ…。

日本経済新聞 2025/04/19、産経新聞 2025/04/20

2025:3./ 508p
978-4-15-210412-0

¥3,630 [税込]





ビジネスと人権～人を大切にしない社会を変える～(岩波新書 新赤版 2052)

伊藤 和子 著
岩波書店

人権というレンズで企業活動を改めて見直すと問題が山積している。私たち一人一人が国連のビジネスと人権に関する指導原則を知り、企業による人権侵害が横行する社会を変えていくための一冊。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:2./ 270p
978-4-00-432052-4

¥1,100〔税込〕



天使も踏むを畏れるところ<上>

松家 仁之 著
新潮社

敗戦から15年、空襲で焼け落ちた明治宮殿の跡地に、皇居「新宮殿」造営の大プロジェクトが動き出す。村井俊輔を中心に、「象徴天皇」にふさわしい宮殿のありかたを懸命に模索する人びとを描く。『新潮』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:3./ 545p
978-4-10-332814-8

¥2,970〔税込〕



天使も踏むを畏れるところ<下>

松家 仁之 著
新潮社

皇室の伝統と民主社会の節点を探りながら、「新宮殿」の設計は佳境を迎えようとしている。建築家・村井俊輔を支える者、反目する者、立ちはだかる壁…。理想の建築をめぐる人間ドラマを描く大長篇。『新潮』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:3./ 545p
978-4-10-332815-5

¥2,970〔税込〕



父が消えた(文春文庫)

尾辻 克彦 著
文藝春秋

独自の感性、絶妙の話術、既成小説の定型を解体することで構築された「小説のポップアート」。芥川賞受賞の表題作の他、「星に触わる」「猫が近づく」「自宅の蠢き」「お湯の音」を収録。

日本経済新聞 2025/04/26

1986:8./ 266p



すべての企業人のためのビジネスと人権入門

羽生田 慶介 著
日経BP社

「脱炭素」の次は「人権」！ 児童労働・差別表現・ハラスメントなど、企業が「ビジネスと人権」に取り組むための基礎知識と、具体的な実践方法、「人権リスク対策」を通じてビジネスを拡大するためのヒントを徹底解説する。

日本経済新聞 2025/04/26

2022:8./ 295p
978-4-296-00104-0

¥2,200〔税込〕





詩人たちの自然誌～一九世紀初頭ドイツ語圏の文学と科学～

時田郁子 著
国書刊行会

19世紀初頭の自然科学的文脈を辿りつつ、ノヴァーリス、ホフマンらロマン派の小説、ゲーテ、シラーの諸作品、探検博物者の詩的テキストを紐解く。ドイツ語文学に新たな読みの喜びをもたらす論考。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:2./ 308p
978-4-336-07731-8

¥3,520〔税込〕



9 78 4336 077318



幕末女性の生活～日記に見るリアルな日常～

村上 紀夫 著
創元社

滝沢馬琴の息子に嫁いだ路など、女性自身が書き残した日記から、幕末の暮らしを読み解く。ご近所との付き合い、飼い猫の一生、妊娠と出産、伝染病への対処、年中行事など細やかで豊かな世界が見えてくる。

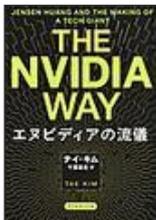
日本経済新聞 2025/04/26

2025:3./ 233p
978-4-422-20184-9

¥1,980〔税込〕



9 78 4422 201849



エヌビディアの流儀

テイ・キム 著
ダイヤモンド社

突如としてテクノロジー業界の頂点にまでのぼり詰めたエヌビディア。「半導体」と「AI」という2つの重要産業を制し、株式市場のメガスターとなった企業の歴史を描き、その価値を解き明かすノンフィクション。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:2./ 448p
978-4-478-12014-9

¥2,640〔税込〕



9 78 4478 120149



砂の器 映画の魔性～監督野村芳太郎と松本清張映画～

樋口 尚文 著
筑摩書房

公開から半世紀を経た今も人気の映画「砂の器」。松本清張原作を大胆に映像化した脚本・監督・音楽家による仕掛けとは？ 初公開秘蔵資料をもとに秘密に迫る。関係者へのインタビューも収録。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:3./ 381p
978-4-480-87417-7

¥2,750〔税込〕



9 78 4480 874177



「人」から考える「ビジネスと人権」

湯川 雄介 著
有斐閣

なぜ、企業が人権を尊重しなくてはいけないのか？ 企業による「ビジネスと人権」への取り組みについて、「人から見る」と「do no harm(他人に害をなさない)」の2つのキーワードを軸に解説する。

日本経済新聞 2025/04/26

2024:10./ 342p
978-4-641-12653-4

¥2,750〔税込〕



9 78 4641 126534



ビジネスと人権～基本から実践まで～

塚田 智宏 著
商事法務

「ビジネスと人権」について企業に求められる取組や留意点を平易に解説。外部から人権侵害を指摘された「有事」の際の対応や、国ごとに異なる海外法令を踏まえた対応方針など、実務担当者の悩みにこたえる。Q&A も収録。

日本経済新聞 2025/04/26

2024:4./ 256p
978-4-7857-3061-1

¥2,750 [税込]



アニメーションと国家～戦うキャラクター、動員されるアニメーター～

雪村 まゆみ 著
フィルムアート社

国家の介入によって大きく変化したアニメーション。プロパガンダ作品の分析や日仏の比較だけでなく、聖地巡礼、アニメーターの労働環境といった現代の事象や作品も扱いながら、アニメーションと戦争、国家との関係を捉え直す。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:3./ 320p
978-4-8459-2423-3

¥2,860 [税込]



「女子マネージャー」の社会学

関 めぐみ 著
左右社

日本の大学の運動部活動は学生スタッフが支えなければ成り立たない制度設計になっているのに、選手とは対等な関係ではない。女子マネージャーを中心とした語りをもとに、学生スタッフ制度が抱える問題を明らかにする。

日本経済新聞 2025/04/26

2025:2./ 324p
978-4-86528-454-6

¥3,300 [税込]



おしゃべりな絶滅動物たち～会えそうで会えなかった生きものと語る未来～

川端 裕人 著
岩波書店

ドードー、ステラーカイギュウ、リョコウバト…。ヒトによる発見から驚くほど短期間で姿を消した動物たちの足跡を求め、著者は世界各地を訪ね歩き、彼らの声なき声を耳にする。愛すべき動物とヒトの未来の物語。

毎日新聞 2025/04/05

2025:1./ 238p
978-4-00-061679-9

¥2,860 [税込]



カヴァフィス詩集(岩波文庫 赤 N735-1)

カヴァフィス 著
岩波書店

歴史を題材にアイロニーの色調でうたうもの、同性との秘められた恋と官能を追憶としてよむもの…。池澤夏樹が半生をかけて訳した、孤高のギリシャ語詩人カヴァフィスの全 154 詩を収録。詳細な訳注も付す。

毎日新聞 2025/04/05

2024:12./ 478p
978-4-00-377015-3

¥1,364 [税込]





日本語の作文技術 新版(朝日文庫 ほ 1-41)

本多 勝一 著

朝日新聞出版

修飾の順序、句読点のうちかた、助詞の使い方など、ちゃんとした日本語を書くための技術を本多勝一が解説する。世代を超えて、30年以上読み継がれてきた文章術のロングセラー。

毎日新聞 2025/04/05

2015:12./ 323p
978-4-02-261845-0

¥660〔税込〕



アンパンマンと日本人(新潮新書 1080)

柳瀬 博一 著

新潮社

おななが空いた人に自分の顔を食べさせる不思議なキャラクター、アンパンマンはどのように誕生し、国民的ヒーローになったのか。生みの親である漫画家やなせたかしの生涯をたどりながら、その秘密を解き明かす。

毎日新聞 2025/04/05

2025:3./ 207p
978-4-10-611080-1

¥968〔税込〕



詩人たちのロールシャッハ〜創造的言葉が生まれてくるところ〜

馬場 禮子 編

大岡 信/吉本 隆明/澁澤 龍彦/吉行 淳之介/野坂 昭如/谷川 俊太郎 著

創元社

人間がおこなう芸術的創造とは何か? 創造力に優れた人とは、どんな特質をもっている人のことなのか? 臨床心理学者が、日本を代表する7名の詩人・作家たちに施行したロールシャッハ法と、その後の対話の全記録をまとめる。

毎日新聞 2025/04/05

2025:1./ 349p
978-4-422-11725-6

¥6,600〔税込〕



儒学者兆民〜「東洋のルソー」再考〜(叢書パルマコン 08)

田中 豊 著

創元社

ルソーの「社会契約論」を中江兆民が翻訳した「民約訳解」を、兆民の思想書として詳細に再検討。兆民がルソーを介して、在来思想としての儒教に回帰し、それを刷新しようとした「儒学者」であったことを鮮明にする。

毎日新聞 2025/04/05

2024:12./ 259p
978-4-422-20300-3

¥4,400〔税込〕



不真面目な戦争論〜哲学者たちの生存戦略〜

入谷 秀一 著

ナカニシヤ出版

カントは講和条約をパクリ、プラトンは戦争ごっこを楽しむ…。「真面目な」戦争に立ち向かい、死なずに負けずに最後に笑うのは不真面目なる知恵。哲学・フランクフルト学派の研究者による異色の戦争論。

毎日新聞 2025/04/05

2024:3./ 254p
978-4-7795-1828-7

¥2,640〔税込〕





オーケストラと日本人(叢書ビブリオムジカ)

井上 登喜子 著

アルテスパブリッシング

ベートーヴェンなどドイツ音楽への傾倒、カルメン人気にみる大衆音楽への接続、「正典」を中心に均質化するレパートリー…。大正期から今日までの演奏会データを徹底分析し、日本のクラシック音楽文化形成の過程を実証する。

毎日新聞 2025/04/05

2025:2./ 272p
978-4-86559-305-1

¥3,080〔税込〕



60歳からはアニメ三昧〜20世紀アニメ年代記 1963〜〜

松岡 秀幸 著

言視舎

ヤマト、ガンダム、セーラームーン、ポケモン…。アニメ第一世代の元書店員が、テレビアニメの変遷にあわせ政治・事件・文化・風俗など時代の動きを、自身の経験を交え解説する作品史。おすすめ作品も掲載する。

毎日新聞 2025/04/05

2025:1./ 307p
978-4-86565-287-1

¥2,640〔税込〕



ファンキー中国〜出会いから紡がれること〜

井口 淳子／山本 佳奈子／広岡 今日子／長嶺 亮子／無常くん／二村 淳子／宮里 千里／大友 良英／多田 麻美／中山 大樹／OKI／濱田 麻矢／武田 雅哉 著

灯光舎

雲南省の村でみた祭祀風景、映画に関わり北京郊外で暮らした日々、瀋陽公園で踊る人々や80年代の「魔都」上海の記憶…。音楽家、蒐集家、祭祀採音者、ライター、研究者など13人が綴る中国体験記。

毎日新聞 2025/04/05

2025:2./ 320p
978-4-909992-04-8

¥2,530〔税込〕



謎ときエドガー・アラン・ポー〜知られざる未解決殺人事件〜(新潮選書)

竹内 康浩 著

新潮社

「推理小説の始祖」ポーは、なぜ突然、推理小説を書くのをやめたのか。2世紀もの間、誰も気づかなかった殺人事件を作品内に「発見」した著者が、ポーの作品世界を読み解く。

毎日新聞 2025/04/05、産経新聞 2025/04/27、読売新聞 2025/04/27

2025:2./ 238p
978-4-10-603923-2

¥1,815〔税込〕



カフカ俳句

頭木弘樹 編

フランツ・カフカ 著

中央公論新社

「絶望し恐怖にふるえている太陽」「まっすぐに立つ不安」「黒い水をかき分けて泳ぐ」。手紙や日記などの遺稿から、ありのままのカフカの言葉80を厳選し、俳句に見立て味わう。俳人・九堂夜想との対談も収録。

毎日新聞 2025/04/05、朝日新聞 2025/04/12

2024:11./ 204p
978-4-12-005854-7

¥1,925〔税込〕





潤日～日本へ大脱出する中国人富裕層を追う～

舛友 雄大 著
東洋経済新報社

湾岸タワマンをキャッシュで爆買い、銀座のど真ん中を一望できる会員制クラブ、ニセコ町を開発…。日本に押し寄せる中国新移民「潤日」とは何者なのか？知らぬ間に存在感を増す潤日コミュニティの現状を追う。

毎日新聞 2025/04/05、朝日新聞 2025/04/26

2025:2./ 335p
978-4-492-22424-3

¥1,980〔税込〕



反共と愛国～保守と共棲する民主社会主義～

藤生明 著
中央公論新社

時に自民党よりもタカ派の政策を打ち出す一方、行革などで存在感を示した民社党。彼らは何をめざし、連合や国民民主党などいかなる影響を及ぼしているのか。労働運動と右派の奇妙な交錯の奇跡を描き出すノンフィクション。

毎日新聞 2025/04/05、読売新聞 2025/04/27

2025:3./ 251p
978-4-12-005890-5

¥2,420〔税込〕



シスター・レイ

長浦 京 著
KADOKAWA

東京・墨田区在住の外国人たちの世話役として“シスター”と慕われる能條玲。フィリピン出身の女性に頼まれ、彼女の息子を探していた玲は、暴力団と外国人半グレ集団との抗争に巻き込まれ…。『小説野性時代』掲載を加筆修正。

毎日新聞 2025/04/07

2025:3./ 413p
978-4-04-113480-1

¥2,090〔税込〕



時を刻む湖～7万枚の地層に挑んだ科学者たち～(岩波現代文庫 社会 351)

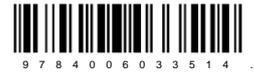
中川 毅 著
岩波書店

若狭湾岸の湖底から発見された土の縞模様が、過去5万年の時を測る「世界の標準時計」になった。土の縞模様「年縞」を手にした若者たちの研究の実際、栄光と挫折を当事者が語る。『図書』掲載コラムを加えて文庫化。

毎日新聞 2025/04/12

2024:12./ 184p
978-4-00-603351-4

¥1,023〔税込〕



大使とその妻<上>

水村 美苗 著
新潮社

2020年、ケヴィンの親しい隣人だった元外交官夫妻は前年に姿を消したままだった。能を舞い、嫺やかに着物を着こなす夫人・貴子。ケヴィンはその数奇な半生を、日本語で書き残そうと決意する…。『新潮』連載を修正・加筆。

毎日新聞 2025/04/12

2024:9./ 337p
978-4-10-407704-5

¥2,200〔税込〕





大使とその妻<下>

水村 美苗 著
新潮社

幼い娘を手放した父の切実な願い、底知れぬ悲しみ-。軽井沢の季節の移ろいの中に、変わりゆく日本に翻弄されながらも懸命に生きる人々の姿を描きだす。『新潮』連載を修正・加筆。

毎日新聞 2025/04/12

2024:9./ 341p
978-4-10-407705-2

¥2,200〔税込〕



「死後生」を生きる〜人生は死では終わらない〜

柳田 邦男 著
文藝春秋

人は死によって肉体は失くなくても、その人の思いや愛や言葉や行為は、遺された者たちの心の中でずっと生き続ける-。「生と死」というテーマに、半世紀あまり取り組んできた柳田邦男の集大成。

毎日新聞 2025/04/12

2025:1./ 269p
978-4-16-391937-9

¥1,760〔税込〕



物語じゃないただの傷

大前 粟生 著
河出書房新社

“男のくせにフェミニストやポリコレにおもねった”発信でメディアに引っ張りだこの後藤。ある日、職も金もなく“報われない男”・白瀬が、後藤の秘密を盾に脅迫してきて…。『文藝』掲載を書籍化。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 134p
978-4-309-03950-3

¥1,892〔税込〕



4月の本(12か月の本 4)

西崎憲 編

太宰治／北川冬彦／獅子文六／日夏耿之介／堀辰雄／中井英夫／村山槐多／鍋木清方／渡辺温／吉田健一／T・S・エリオット／尾崎一雄／宮沢賢治／水野葉舟／ロアルド・ダール／ギュスターヴ・カーン／久生十蘭／片山廣子／泉鏡花／山川方夫／坂口安吾 著

国書刊行会

12か月のうちの<ひと月>をテーマに古今東西の小説・詩歌・随筆を集めたアンソロジー。太宰治「春昼」、中井英夫「牧神の春」、吉田健一「イギリスの春と春の詩」など全21篇を収録する。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 291p
978-4-336-07737-0

¥3,080〔税込〕





5月の本(12か月の本 5)

西崎憲 編

尾形亀之助/須賀敦子/岩本素白/堀辰雄/三島由紀夫/寺田寅彦/鍋木清方/マッ
シモ・ボンテンペリ/小山いと子/谷川俊太郎/三橋一夫/吉田健一/久坂葉子/
吉江喬松/萩原朔太郎/鈴木三重吉/吉屋信子/江戸川乱歩/岡本綺堂/村山槐多/
芥川龍之介/野上弥生子/スワヴォーミル・ムロージェック/川端康成/石垣りん/
宇野浩二/レオノーラ・カリントン/尾崎翠 著

国書刊行会

12か月のうちの<5月>をテーマに古今東西の小説・詩歌・随筆を集めたアンソロジー。
須賀敦子「アスパラガスの記憶」、谷川俊太郎「五月の人ごみ」、川端康成「五月の幻」など全33篇を収録する。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 292p
978-4-336-07738-7

¥3,080 [税込]



「なぜ」と聞かない質問術〜「良い質問」を40年磨き続けた対話のプロがたどり着いた〜

中田 豊一 著

ダイヤモンド社

「なぜ」と聞くと、意図せずに相手の「思い込み」を引き出してしまふ。正しくもの
を見る人は「良い質問」だけを繰り返す。すべての解釈を排し、事実を淡々と伝えあ
う、事実に基づいた対話手法を紹介する。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 253p
978-4-478-12078-1

¥1,804 [税込]



ポピュリズムの仕掛人〜SNSで選挙はどのように操られているか〜

ジュリアーノ・ダ・エンポリ 著

白水社

SNSという装置によって大衆が煽動される世界。怒りの感情をアルゴリズムで煽
り、民主主義をカオスにおとし入れる人々をとりあげ、ポピュリズム政治の「カーニ
バル化」を巧みに解明する。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 210p
978-4-560-09158-6

¥2,420 [税込]



泣いた赤おに

浜田 広介 著

あすなろ書房

青おにのおかげで、人間と仲良くなれた赤おに。そのかげで青おには…。見返りを求
めることなく、ただ、友の幸せを願う青おにの姿が胸をうつ、悲しくもあたたかいひ
ろすけ童話の傑作。

毎日新聞 2025/04/12

2016:7./ 46p
978-4-7515-2811-2

¥1,650 [税込]





中島千波彩(いろいろ)図鑑<5> 2015-2024(求龍堂グラフィックス)

中島 千波 著
求龍堂

日本画家・中島千波の作品集。「四季の花々」「桜」「おもちゃシリーズ」「野菜・果実・生きもの」など、2015年から2024年までに制作された全作品 822 点を掲載する。

毎日新聞 2025/04/12

2025:1./ 320p
978-4-7630-2418-3

¥3,080〔税込〕



パトリシア・ハイスミスの華麗なる人生

アンドリュー・ウィルソン 著
書肆侃侃房

「太陽がいっぱい」「見知らぬ乗客」「キャロル」などで知られる作家パトリシア・ハイスミス。生誕 100 周年を迎え、残された膨大な日記と手紙、インタビューから謎に包まれたサスペンスの巨匠の全貌に迫る。

毎日新聞 2025/04/12

2024:12./ 710p
978-4-86385-654-7

¥7,480〔税込〕



mothers(路草 COMICS)

草原うみ 著
トゥーヴァージンズ

親子、家族、人間関係の複雑さを優しさあふれる視点で真正面からとらえた珠玉の 12 編。秘めた気持ちがあふれ出す。新鋭・草原うみの初短編集。

毎日新聞 2025/04/12

2024:6./ 253p
978-4-86791-015-3

¥1,496〔税込〕



あらがうドラマ～「わたし」とつながる物語～

西森 路代 著
303 BOOKS

ままならない日常にあらがうために、今見るべきドラマがここにある! 日々変化する価値観や社会のあり方をとらえた日本のテレビドラマ 23 作品を厳選し、さまざまな切り口から書き尽くす。脚本家・吉田恵里香との対談も収録。

毎日新聞 2025/04/12

2025:3./ 271p
978-4-909926-43-2

¥1,870〔税込〕



美か義か～日本人の再興～

新保 祐司 著
藤原書店

「義」なき美にふやけた、戦後の昭和・平成。内村鑑三の「美と義」を出発点に、葛飾北斎と富岡鉄斎、兼好法師と北島親房などを対比。日本人の精神史を貫く「義」を刻みだす。日本学協会発行の雑誌『日本』連載に加筆修正。

毎日新聞 2025/04/12、産経新聞 2025/04/13

2025:2./ 210p
978-4-86578-451-0

¥2,860〔税込〕





テクノ封建制～デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配するとんでもなく醜くて、不公平な経済の話。～(集英社シリーズ・コモン)

ヤニス・バルファキス 著
集英社

資本主義はすでに終焉を迎え、グーグルやアップルなどの巨大テック企業が人々を支配する「テクノ封建制」が始まっている。この不公平なシステムを打ち破る鍵はどこにあるのか？ 異端の経済学者が、社会の変質を看破する。

毎日新聞 2025/04/12、朝日新聞 2025/04/26

2025:2./ 319p
978-4-08-737008-9

¥1,980〔税込〕



キリスト教綱要 初版(講談社学術文庫 2850)

ジャン・カルヴァン 著
講談社

スイスで宗教改革を指導した神学者ジャン・カルヴァンの名を知らしめた主著。最も読みやすく、要点を網羅している初版を、篤実な日本語で新訳する。巻末に訳者解題付き。

毎日新聞 2025/04/19

2025:2./ 563p
978-4-06-538782-5

¥2,310〔税込〕



文品～藤沢周平への旅～

後藤正治 著
中央公論新社

歳月が持つ哀しみ、人生への情熱、喪失感。時代(歴史)小説を舞台に、静謐な文体で人の世の「普遍」を描き続けた作家、藤沢周平。ノンフィクションの名手が、その人と作品の魅力に迫る。『中央公論』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 333p
978-4-12-005904-9

¥2,640〔税込〕



おろしや国酔夢譚(文春文庫 い2-31)

井上 靖 著
文藝春秋

1782(天明2)年、伊勢白子の浦を出航した神昌丸は、暴風のなかで舵を失い漂流。小島にたどり着いた船頭・大黒屋光太夫と16人の船乗りたち。彼らを待っていたのはロシア国内での10年に及ぶ流浪の暮らしだった…。

毎日新聞 2025/04/19

2014:10./ 415p
978-4-16-790208-7

¥847〔税込〕



孤城春たり

澤田瞳子 著
徳間書店

借財10万両から蓄財10万両へ。わずか7年で財政を建て直した備中松山藩の改革とは。「財政再建の神様」山田方谷を筆頭に、時代の波に揉まれながら懸命に生きる人々を描いた幕末群像劇。『山陽新聞』連載を加筆修正。

毎日新聞 2025/04/19

2024:11./ 473p
978-4-19-865901-1

¥2,420〔税込〕





出獄記

山本 譲司 著

ポプラ社

受刑者たちは、どこへ帰るのか？ 死刑囚、刑務官、外国人受刑者、家族、福祉関係者...。長年日本の刑務所を見つめ続けた「獄窓記」の著者・山本譲司が、赤裸々な苦悩と希望に向き合う人々の物語を小説と実話を交えて伝える。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 352p
978-4-591-17991-8

¥2,090〔税込〕



やくそく〜ぼくらはぜったい戦争しない〜(ポプラ社の絵本 104)

那須 正幹 著

ポプラ社

ばあちゃんは、ぼくのことを原爆で死んだ“にちゃん”とまちがえる。死んだ人にまちがわれるなんて、いやだけど...。3歳のときに広島で被爆し、生涯をかけて平和を訴え続けた児童文学作家・那須正幹が遺した物語。

毎日新聞 2025/04/19

2025:2./ 32p
978-4-591-18427-1

¥1,980〔税込〕



生きる証し

姜尚中 著

毎日新聞出版

これまでの人生を「生きた、悩んだ、出会った」という3つの言葉で集約し、生きる証としたい。「悩む力」の著者が老年期の希望を説く。女優・小山明子との対談も収録。毎日新聞読者向けの冊子『私のまいにち』連載を書籍化。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 196p
978-4-620-32820-1

¥1,100〔税込〕



アリの放浪記〜多様な個が生み出す驚くべき社会〜

オドレー・デュストゥール／アントワーヌ・ヴィストラール 著

山と溪谷社

地球上に2万種存在するともいわれているアリの魅惑的な社会生活を、世界的アリの研究者が紹介する。個体の5〜10%しかいない巣の外に出て食べ物を探し求めるアリ「採餌アリ」に焦点を当て、アリたちの視点で世界を見る。

毎日新聞 2025/04/19

2025:1./ 406p
978-4-635-23012-4

¥3,190〔税込〕



ヒルマ・アフ・クリント〜目には見えないものをもとめて〜

ハリエット・ヴァン・レーク 著

朔北社

すべてが動いていた、ゆらゆらと、かさこそと。彼女が描きたかったのは、目に見えないものだった...。カンディンスキーやモンドリアンより早く抽象絵画を描いたスウェーデンの画家ヒルマ・アフ・クリントを描く。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 25p
978-4-86085-150-7

¥1,870〔税込〕





大岡信～言葉を生きる、言葉を生かす～

県立神奈川近代文学館、神奈川文学振興会 編
港の人

「折々のうた」をはじめ、詩歌の魅力を伝えた大岡信。その生涯をおいながら、彼が紡いだ豊かな言葉の世界に迫る。書、詩稿ノート、創作メモなど貴重な資料を多数収録する。2025年開催の県立神奈川近代文学館の特別展図録。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 173p
978-4-89629-454-5

¥2,420〔税込〕



片思い世界

坂元 裕二 著
リトル・モア

一軒家でともに暮らす3人の女性。強い絆で結ばれた彼女たちの、12年にわたる“片思い”とは…。2025年4月公開映画「片思い世界」のオリジナルシナリオ。

毎日新聞 2025/04/19

2025:3./ 152p
978-4-89815-606-3

¥1,980〔税込〕



眼述記～全身マヒになった夫が文字盤で最初に示したのは「さわるな」の4文字だった。～

高倉 美恵 著
忘羊社

脳梗塞で倒れ全身マヒとなった夫を、自宅で24時間介護すると決意した元書店員。介護に子育て、読書にマラソン、そして2回のガン宣告を受け…。怒涛の日々をマンガとともに綴る。『毎日新聞』西部本社版連載を加筆し書籍化。

毎日新聞 2025/04/19

2025:2./ 263p
978-4-907902-37-7

¥1,925〔税込〕



みしらぬ国戦争

三崎 亜記 著
KADOKAWA

未確認隣接国家<UNC>の侵略で「交戦状態」となったこの国。2年間続く戦争に、人々は飽き飽きしていた。海岸の漂着物を確認するユイは、両親の形見に刻まれた文字の正体を突き止め、幼い頃失った記憶を取り戻そうと…。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 276p
978-4-04-114944-7

¥1,980〔税込〕



玩具修理者(角川ホラー文庫)

小林 泰三 著
角川書店

玩具修理者はなんでも直してくれる。どんな複雑なものでも。たとえ死んだ猫だって。ある暑すぎる日、子供のわたしは過って弟を死なせてしまった。わたしは弟を玩具修理者のところへ持っていくが……。

毎日新聞 2025/04/26

1999:4./ 221p
978-4-04-347001-3

¥638〔税込〕





地下水(P+D BOOKS)

川崎 長太郎 著
小学館

戦前・戦中期、東京でやっていけなくなった小説書きの小川庄太は故郷の小田原に戻った。困窮し、軍隊に入るか、牢に入るかというところまで追いつめられて…。自分と家族の身の上と、文学仲間の動静を淡々と綴る私小説。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 138p
978-4-09-352506-0
¥660〔税込〕



受け手のいない祈り

朝比奈 秋 著
新潮社

感染症の拡大で医療体制が逼迫し、青年医師・公河たちの病院が最後の望みになった。連続勤務で公河たちの身体と精神は限界に…。医師としての経験を元に過酷すぎる救命の現場を描く。『文學界』掲載を改稿。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 233p
978-4-10-355732-6
¥2,090〔税込〕



彼女たちに守られてきた

松田青子 著
中央公論新社

石井桃子、大島弓子、長くつ下のピッピ、ドラマの中の闘う人、母と作ったクッキー、カフェで一人過ごす女性…。彼女たちが教えてくれた、自分の人生を送る方法。2015～2024年のエッセイを収録。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 219p
978-4-12-005897-4
¥1,980〔税込〕



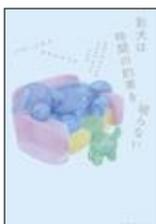
終わりに対話～やさしさを教えてほしい～

谷川俊太郎／中島みゆき 著
朝日出版社

大学の卒業論文でテーマにするほど、谷川俊太郎に深い関心を抱いていたシンガーソングライターの中島みゆき。2人の対談、中島みゆきが谷川俊太郎について書いたエッセイ、谷川俊太郎による中島みゆき論などを収録する。

毎日新聞 2025/04/26

2025:4./ 221p
978-4-255-01398-5
¥1,980〔税込〕



影犬は時間の約束を破らない

パク・ソルメ 著
河出書房新社

ソウル、釜山、沖縄、旭川。治療としての<冬眠>が普及した世界の、眠る者と見守る者。やがて犬たちが、人々を外へと導き…。未踏の文学を切り開く作家による、世界とはぐれた心を結び直す冬眠小説集。

毎日新聞 2025/04/26

2025:2./ 198p
978-4-309-20919-7
¥2,640〔税込〕





スピリチュアリズムの時代～1847-1903～

伊泉龍一 著

紀伊國屋書店出版部

スピリチュアリズムはいかにして発生し、なぜ人々を魅了したのか。18世紀のスウェーデンボルグやメスメリズムに遡りつつ、ムーヴメントが隆盛を極めた時代の記録から、背景にあった社会思想や文化的意義を踏まえて考察する。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 804p
978-4-314-01207-2

¥7,480〔税込〕



テオドラ～女優からビザンツ皇后、聖人へ～

デイヴィッド・ポッター 著

白水社

6世紀、娯楽産業界とキリスト教界の人脈を持って夫ユスティニアヌスを支えたビザンツ皇后テオドラ。多くの障害を乗り越えて頂点に立ち、女性や子供のための画期的な法律を制定した女性政治家の実像を探る。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 348p
978-4-560-09159-3

¥4,400〔税込〕



天までのぼれ

中脇 初枝 著

ポプラ社

女も住むこの国のことを、女抜きで決めないでほしい。男も女も、民衆には多くの権利がなかった100年以上前、高知で女性参政権を求めて申し立てをした楠瀬喜多。世界でも早い時期に声を上げた女性を描く評伝小説。

毎日新聞 2025/04/26

2025:2./ 462p
978-4-591-15799-2

¥2,420〔税込〕



雪のうた

左右社編集部 編

左右社

「夢のなかにいつか棲みつきし人をりて雪ふれば冬の表情をもつ」「さようならが機能をしなくなりましたあなたが雪であったばかりに」 同時代の歌人100人がうたった100首の「雪」をテーマにした短歌アンソロジー。

毎日新聞 2025/04/26

2024:12./ 135p
978-4-86528-446-1

¥2,200〔税込〕



桐生市事件～生活保護が歪められた街で～

小林 美穂子／小松田 健一 著

地平社

保護費を毎日1000円だけ手渡し、残りは金庫にしまうなど、信じがたい運用が発覚した桐生市の生活保護行政。助けを求める市民を威圧し、支給を徹底的に削る姿勢が明らかになり…。支援と取材の現場から迫ったルポ。

毎日新聞 2025/04/26

2025:3./ 206p
978-4-911256-16-9

¥1,980〔税込〕

